

(様式第10)

鹿大医歯病総第804号
平成26年10月3日

九州厚生局長 殿

開設者名 前田 芳實 (印)

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号
氏 名	国立大学法人鹿児島大学長 前田 芳實

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鹿児島大学病院

3 所在の場所

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘八丁目35-1 電話(099)275-5111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 循環器内科 5 リウマチ科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無						
外科と組み合わせた診療科名							
1 消化器外科	2 心臓血管外科	3 呼吸器外科	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無						
歯科と組み合わせた診療科名							
1 矯正歯科	2 小児歯科	3 歯科口腔外科	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科	2 小児外科	3 リハビリテーション科	4 病理診断科	5	6		
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	13休床	床	662床	715床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	209人	296人	447.7人	看護補助者	75人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	101人	46人	140.9人	理学療法士	12人	臨床検査技師	47人
薬剤師	43人	5人	48人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	6人
助産師	37人	1人	37.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	628人	32人	653.1人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	12人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	11人	5人	16人	歯科技工士	5人	事務職員	164人
管理栄養士	6人	4人	10人	診療放射線技師	35人	その他の職員	44人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 9月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	8人	眼科専門医	13人
外科専門医	25人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	1人
		合 計	162人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	532.1人	26.4人	558.5人
1日当たり平均外来患者数	871.7人	407.7人	1279.4人
1日当たり平均調剤数			1,299剤
必要医師数			109人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			319人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	718 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	15床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 230m ² [移動式の場合] 台数 9台		病床数	15床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 30m ² [共用室の場合] 共用する室名 無					
化学検査室	304 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) デイスクリット方式臨床化学自動分析装置、免疫比濁分析装置、免疫蛍光分析装置、免疫発光測定装置、蛋白分画電気泳動分析装置、グルコース分析装置、グリコヘモグロビン分析装置、血液計数装置、血液塗抹標本作製装置、フローサイトメータ			
細菌検査室	45 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養自動分析装置、遺伝子解析装置、嫌気培養装置、炭酸ガス培養装置、抗酸菌培養検査装置、免疫蛍光測定装置、微生物分類同定分析装置、微生物由来成分分析装置、微生物感受性分析装置			
病理検査室	39 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、滑走式マイクローム、自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色・ISH装置、凍結切片作製装置、集細胞遠心装置、顕微鏡、病理・細胞診検査業務支援システム			
病理解剖室	273 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) バイオハザード対応排気システム、排水蒸気滅菌処理システム			
研究室	8,026 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ガスクロマトグラフ、電子顕微鏡			
講義室	655 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	499人
図書室	1980m ²	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	142000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	81.0%	逆紹介率	66.6%
算出根拠 A: 紹介患者の数			13,432人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,480人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			527人
D: 初診の患者の数			17,227人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当無し			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	81人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	58人	・広範脊柱管狭窄症	71人
・重症筋無力症	85人	・原発性胆汁性肝硬変	163人
・全身性エリテマトーデス	303人	・重症急性膵炎	24人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	87人
・再生不良性貧血	40人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	115人	・原発性免疫不全症候群	10人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	231人	・網膜色素変性症	72人
・特発性血小板減少性紫斑病	60人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	30人	・肺動脈性肺高血圧症	23人
・潰瘍性大腸炎	58人	・神経線維腫症	53人
・大動脈炎症候群	29人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	19人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	16人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	20人
・脊髄小脳変性症	55人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	43人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	6人	・脊髄性筋萎縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	59人	・球脊髄性筋萎縮症	4人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	99人	・肥大型心筋症	12人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	44人	・ミトコンドリア病	18人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	49人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・黄色靭帯骨化症	11人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	236人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院 歯科初診料	・総合評価加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科診療特別対応連携 加算	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料1
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料3
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・短期滞在手術等基本料2
・診療録管理体制加算1	・
・急性期看護補助体制加算	・
・看護補助加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(地域連携含む)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・ヘッドアップティルト試験
・高度難聴指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料3	・内服・点滴誘発試験
・外来緩和ケア管理料	・センチネルリンパ節生検(併用法)
・糖尿病透析予防指導管理料	・画像診断管理加算2
・外来放射線照射診療料	・歯科画像診断管理加算1
・地域連携診療計画管理料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料	・無菌製剤処理料
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(I)	・運動器リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・集団コミュニケーション療法料
・植込型心電図検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・時間内歩行試験	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・認知療法・認知行動療法1	・補助人工心臓
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的動脈遮断術
・医療保護入院等診療料	・ダメージコントロール手術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・腹腔鏡下肝切除術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・生体部分肝移植術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・網膜再建術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工内耳植込術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・輸血管理料Ⅱ
・経皮的冠動脈形成術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・歯周組織再生誘導手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算	・口腔病理診断管理加算2
・高エネルギー放射線治療	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・1回線量増加加算	・歯科矯正診断料
・強度変調放射線治療(IMRT)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	
・病理診断管理加算2	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
活性化マクロファージを標的とした不安定プラークの分子イメージングと治療法の開発	宮田 昌明	心臓血管内科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
サルコペニアに対するAktシグナルを標的とした新しい治療法の開発	赤崎 雄一	心臓血管内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
認知機能と糖代謝の相互作用-新しい治療ターゲットとしてのAngIV-IRAP系-	大石 充	心臓血管内科	500,000	補 委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝疾患におけるキヌーゲン断片ペプチドを介した高血圧の関与	宇都 浩文	消化器疾患・生活習慣病学	1,100,000	補 委	日本学術振興会
サイトカインプロファイルによるde novo B型肝炎発症リスクの解明	桶谷 眞	消化器内科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
医療用「迅速ゲル化インジェクタブルゲル」の開発とDrug Delivery System(DDS)徐放担体としての応用	玉井 努	肝疾患相談センター	1,310,000	補 委	科学技術振興機構
次世代遺伝子解析による新型脳炎の原因究明及び神経感染症診断システムの構築	高嶋 博	神経内科	3,500,000	補 委	日本学術振興会
次世代遺伝子解析技術を用いた希少難治性疾患の原因究明及び病態解明に関する研究	高嶋 博	神経内科	76,000,000	補 委	厚生労働省
Isaacs症候群の診断、疫学および病態解明に関する研究	渡邊 修	神経内科	4,500,000	補 委	厚生労働省
自己免疫性脳炎の病態解明および新規抗原の解明	渡邊 修	神経内科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
COPDに関する啓発と早期発見のための方策に関する研究	井上博雅	呼吸器内科	10,000,000	補 委	厚生労働省
自然免疫認識機構に基づく難治性炎症性・感染症肺炎の病態解明	井上博雅	呼吸器内科	2,400,000	補 委	日本学術振興会
気管支喘息における非神経性コリン性炎症の関与と制御に関する研究	東元一晃	呼吸器内科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
間質性肺炎におけるアンジオポエチン様因子の役割の検討	渡辺正樹	呼吸器内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
肺癌増殖における炎症反応の関与と新たなマーカー・治療法の開発	水野圭子	呼吸器内科	900,000	補 委	日本学術振興会
多価不飽和脂肪酸を用いた血管内皮抗酸化システムの活性化戦略の意義を明らかにする。	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
多発地帯における成人T細胞白血病リンパ腫に対する亜硝酸インターフェロンおよびシフトジン三者併用療法の第II相試験	有馬 直道	血液・膠原病内科	15,077,000	補 委	厚生労働省
有棘赤血球舞踏病におけるオートファジー性神経変性の分子的機序の解明と治療的研究	佐野 輝	神経科精神科	2,300,000	補 委	文部科学省
choreinとミトコンドリア関連細胞死の関連について	中村雅之	神経科精神科	800,000	補 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
統合失調症におけるParkin遺伝子の包括的変異解析	中村雅之	神経科精神科	100万円	補委 公益財団法人先進医療研究振興財団
多周波数インピーダンス法を応用した硬性浮腫の客観的評価導入による川崎病重症度評価	野村裕一	小児科	1,500,000	補委 文部科学省
WT1蛋白を標的とするナノ粒子を用いた白血病の高感度MRD診断法の確立	岡本康裕	小児科	1,900,000	補委 文部科学省
乳癌治療時の遊離真皮脂肪片(FDFG)移植に関する基礎的・臨床的研究	喜島 祐子	第一外科	1,600,000	補委 日本学術振興会
食道癌の治療効果予測・再発予測に関する新規N型糖鎖マーカーの開発	内門 泰斗	第一外科	2,000,000	補委 日本学術振興会
消化器癌における腹膜播種機構の解析と微小癌細胞における抗癌剤感受性検査法の確立	上之園 芳一	第一外科	1,900,000	補委 日本学術振興会
頭側尾側アプローチによる新しい内視鏡下頸部郭清術に関する研究	中条 哲浩	第一外科	2,100,000	補委 日本学術振興会
低侵襲性膵臓手術における膵消化管再建術の手術モデル開発と訓練システムの構築	前村 公成	第一外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
食道癌幹細胞を標的とした新しい集学的治療体系の確立	奥村 浩	第一外科	1,000,000	補委 日本学術振興会
治療後の消化器癌遺残腫瘍のキャラクターの解析とその制御に関する研究	石神 純也	第一外科	900,000	補委 日本学術振興会
N型糖鎖を用いた臓器特異的癌腫瘍マーカーの開発	夏越 祥次	第一外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
食道癌腫瘍微小環境に関連する2つの新規候補ペプチド断片による転移・予後解析	佐々木 健	第一外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
視床痛モデルマウスの確立と視床痛発症メカニズムの基礎的検討	有田和徳	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
ヒトの言語—運動連関のメカニズムの磁気刺激を用いた解明および機能回復への応用	時村 洋	脳神経外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
Wnt/Frizzled系主要メッセージ経路探索による新しい抗グリオーマ戦略	平野宏文	脳神経外科	900,000	補委 日本学術振興会
難治性てんかんにおけるSV2Aおよびシナプス小胞放出機構障害の検討	花谷亮典	脳神経外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
新規脂肪酸受容体GPR40を介する疼痛抑制メカニズムの研究	大吉達樹	脳神経外科	1,500,000円	補委 日本学術振興会
Web会議、ITカルテシステムを用いた脳神経外科診療・教育ネットワークの形成	菅田真生	脳神経外科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
グリオーマにおけるSHHと遊走能の関係	内田裕之	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
肺癌進行における骨形成性蛋白の役割の解明	青木 雅也	呼吸器外科	1,300,000	補委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
ミトコンドリア多形解析に基づいた肺腺癌ドライバー変異体系化と発癌時遺伝子変異子測	佐藤 雅美	呼吸器外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
分子標的治療薬による骨肉腫新規治療法研究	瀬戸口啓夫	整形外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Notchシグナル下流因子HEY1制御による骨軟部腫瘍転移抑制	山元拓哉	整形外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
軟骨肉腫分化誘導療法に向けたTGF-βシグナルの標的遺伝子検索と機能解析	横内雅博	整形外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Smpd3の軟骨細胞肥大分化及びヒアルロン酸産生減少における機能解析	梶 博則	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍細胞の生存調節因子としてのCD147/basiginの機能解析	金蔵 拓郎	皮膚科	2,400,000	補委	日本学術振興会
有棘細胞癌・乳房外パジェット病における新規化学療法レジメンの確立と個別化への応用	松下 茂人	皮膚科	2,200,000	補委	日本学術振興会
機能性RNA分子ネットワーク解析による膀胱がんの新規個別化治療の確立	中川 昌之	泌尿器科	2,800,000	補委	日本学術振興会
血中低分子核酸を指標にした腎細胞癌新規腫瘍マーカーの開発	鏑野 秀一	泌尿器科	3,000,000	補委	日本学術振興会
硝子体の基礎病態の解明と制御機構の研究	坂本 泰二	眼科	3,200,000	補委	日本学術振興会
眼内薬物治療の飛躍的効果向上の研究:自然免疫の関与について	坂本 泰二	眼科	1,000,000	補委	日本学術振興会
極性の変化による網膜色素上皮の環境制御に関する研究	園田 祥三	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
内眼炎発症に関連する遺伝子多型の解析と個別化医療への応用	中尾 久美子	眼科	1,700,000	補委	日本学術振興会
ホスホリコリンを用いた多機能性粘膜ワクチンの開発	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,900,000	補委	日本学術振興会
Phosphorylcholine経皮投与による粘膜免疫応答の誘導と制御機構の解明	永野 広海	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,200,000	補委	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎におけるロイコリン受容体変異と難治性に関する研究	大堀 純一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
周術期ストレスホルモンによる体温調節機構	上村裕一	麻酔科	2,600,000	補委	日本学術振興会
呼気ガスバイオマーカーの周術期管理における有用性の検討	松永 明	麻酔科	1,100,000	補委	日本学術振興会
慢性神経因性疼痛におけるPPARgammaシグナルの役割	長谷川麻衣子	麻酔科	700,000	補委	日本学術振興会
メタボロミクスを用いた食欲調節ペプチド自己抗体症候群の総合的解析	乾 明夫	心身医療科	2,900,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
終末期における生活の質の向上—アシルグレリンシグナルからのアプローチ—	浅川明弘	心身医療科	900,000	補委 日本学術振興会
肥満における病態特異的グレリン自己抗体の同定	乾 明夫	心身医療科	2,000,000	補委 日本学術振興会
摂食障害の食欲および食行動調節におけるアディポネクチンの役割	網谷東方	心身医療科	1,000,000	補委 日本学術振興会
経頭蓋磁気刺激を同期させた足通反復療法と低周波、振動刺激併用による片麻痺治療	衛藤誠二	リハビリテーション科	1,500,000	補委 日本学術振興会
ゴーグル型視覚刺激装置を用いた半側空間失認へのリハビリテーションとその効果	緒方敦子	リハビリテーション科	500,000	補委 日本学術振興会
温度受容体の神経因性膀胱の病態への関与の解明	吉田輝	リハビリテーション科	1,400,000	補委 日本学術振興会
嚥下障害に対する高電圧パルス電流を用いた電気刺激療法の効果	松元秀次	リハビリテーション科	600,000	補委 日本学術振興会
視野欠損リハビリテーションの効果のfMRI・NIRSによる評価	宮田隆司	リハビリテーション科	400,000	補委 日本学術振興会
MUC1遺伝子スプライシング異常が口腔癌に及ぼす影響	浜田倫史	口腔外科	1,000,000	補委 文部科学省
骨成長因子・骨補填材を用いた骨造成術における三次元的・病理組織学的検討	西原 一秀	口腔顎顔面外科	700,000	補委 日本学術振興会
エナメル上皮腫による骨破壊・浸潤に関わる細胞間シグナルの解明と治療戦略への展開	中村 典史	口腔顎顔面外科	900,000	補委 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の低酸素環境におけるEMTの解明と治療標的としての意義	石田 喬之	口腔顎顔面外科	700,000	補委 日本学術振興会
共培養実験系を用いたエナメル上皮腫による骨破壊の分子機構解明とリスク判定への応用	藤井 智美	口腔顎顔面外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
菌性感染症変形成時の上皮発現における上皮-間葉移行(EMT)の関与に関する研究	石畑 清秀	口腔顎顔面外科	2,600,000	補委 日本学術振興会
口蓋裂形成手術後のろう孔発生を防止するための多血小板血漿を用いた臨床学的研究	松永 和秀	口腔顎顔面外科	900,000	補委 日本学術振興会
口蓋裂術後の瘢痕拘縮分子メカニズムの解明と新規創傷被覆材開発への展開	岐部 俊郎	口腔顎顔面外科	1,900,000	補委 日本学術振興会
脳-腸相関を軸とした顎口腔と胃食道との間の知覚-運動制御機構と関連疾患の解明	宮脇正一	矯正歯科	4,400,000	補委 日本学術振興会
咽頭・食道・胃の知覚異常と運動機能の低下が不正咬合を引き起こす仮説の検証	宮脇正一	矯正歯科	2,900,000	補委 日本学術振興会
脳・消化管ペプチドによる顎口腔異常機能活動の発現機序の解明	八木孝和	矯正歯科	1,500,000	補委 日本学術振興会
咀嚼による胃の運動機能調整における自律神経機能と消化管ホルモンの役割の解明	大牟禮治人	矯正歯科	1,200,000	補委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
内臓感覚賦活化による口腔生理機能の再生—脳腸相関モデルとPETイメージング解析—	植田紘貴	矯正歯科	400,000	補委 日本学術振興会
現在考えられ得る全ての脱落要因を排除した矯正用皮質骨インプラントシステムの開発	國則貴玄	矯正歯科	1,800,000	補委 日本学術振興会
歯周病原因子と過大な機械的刺激が歯の移動の細胞シグナリング機構に及ぼす影響の解明	前田綾	矯正歯科	1,500,000	補委 日本学術振興会
食道粘膜感受性が顎口腔系のパラファンクシオンに与える影響の解明	友成博	矯正歯科	800,000	補委 日本学術振興会
食道粘膜刺激によるブラキシズム誘発機構の神経生理学的解明と治療法の開発	上村裕希	矯正歯科	1,300,000	補委 日本学術振興会
食道感覚が覚醒時ブラキシズムを惹起する時の脳内活性部位の特定とその発音機序の解明	永山邦宏	矯正歯科	600,000	補委 日本学術振興会
ES/iPS細胞へのMsx2遺伝子導入後の骨芽細胞への分化・機能活性に関する研究	山本芳丈	矯正歯科	600,000	補委 日本学術振興会
唇顎口蓋裂を伴う患者の脳-腸相関を軸とした顎口腔・食道・胃の機能的相関の解明	上原沢子	矯正歯科	1,100,000	補委 日本学術振興会
消化器内科的アプローチによる咀嚼筋障害の根本療法の開発	高田寛子	矯正歯科	1,600,000	補委 日本学術振興会
気道通気障害と口蓋扁桃肥大が小児の咀嚼・嚥下機能におよぼす包括的研究	山崎 要一	小児歯科	9,700,000	補委 日本学術振興会
独自の視点からのヒト歯髄幹細胞の同定、選択的濃縮および特性解析	稲田絵美	小児歯科	1,200,000	補委 日本学術振興会
小児の口呼吸における関連因子の抽出と治療方法の確立	石谷徳人	小児歯科	1,800,000	補委 日本学術振興会
小児期気道通気障害による吸気時過大陰圧の漏斗胸原因・増悪因子としての機序解明	岩崎 智憲	小児歯科	2,500,000	補委 日本学術振興会
心と体の発達は歯磨き手技にどう影響するのか？	伊藤 千晶	小児歯科	1,900,000	補委 日本学術振興会
小児OSASの陥没呼吸と胸郭変形に関する流体構造連成解析を用いた気道通気状態評価	深水 篤	小児歯科	3,000,000	補委 日本学術振興会
いびきの音響解析を用いた新たな口腔内装置の適応基準の確立	菅 北斗	小児歯科	1,600,000	補委 日本学術振興会
流体—構造連成解析を用いた小児睡眠時無呼吸症候群の通気障害評価システムの構築	山崎 要一	小児歯科	1,170,000	補委 日本学術振興会
真の癌幹細胞マーカーは、未分化細胞特異的転写因子Oct-3/4であることの証明	窪田 直子	小児歯科	900,000	補委 日本学術振興会
呼吸様式は、「食べ方」に影響するのか？	武元 嘉彦	小児歯科	1,200,000	補委 日本学術振興会
独創的な手法を用いたヒトiPS細胞由来の歯形成細胞群の濃縮法の樹立	長谷川 大子	小児歯科	1,100,000	補委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
汎用性の高い特異的組織・細胞破壊システムを用いた歯形成不全マウスの作製と応用	松本 祐子	小児歯科	900,000	補委	日本学術振興会
完全なES/iPS細胞に由来する歯形成細胞誘導に関する研究	赤坂 恵理	小児歯科	900,000	補委	日本学術振興会
象牙質知覚過敏症における知覚メカニズムの解明:浸透圧による象牙芽細胞の応答	徳田 雅行	保存科	1,200,000	補委	日本学術振興会
インクレチン関連薬は根尖性歯髄炎と辺縁歯周炎の発症機序に影響を及ぼすか?	作田 哲也	保存科	1,700,000	補委	日本学術振興会
脱分化脂肪細胞DFATを用いた歯周・顎骨組織欠損に対する新規再生治療法の基盤開発	野口和行	歯周病科	2,900,000	補委	日本学術振興会
光殺菌法と進化した多血小板血漿/細胞複合体注入によるインプラント周囲炎治療法の確立	松山孝司	歯周病科	1,100,000	補委	日本学術振興会
成長因子と矯正力によるバイオメカエンジニアリングで切り拓く歯周再生療法の新展開	白方良典	歯周病科	1,400,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来の高純度間葉系幹細胞を用いた新規歯周組織再生療法に関する研究	迫田賢二	歯周病科	1,400,000	補委	日本学術振興会
脱分化脂肪細胞(DFAT)と吸収性ハイブリッドマテリアルを用いた骨再生法の開発	谷山勝義	歯周病科	1,200,000	補委	日本学術振興会
残存歯根膜と成長因子を利用した意図的トランスプラントによる歯周組織再生療法の確立	竹内尚士	歯周病科	1,600,000	補委	日本学術振興会
機能材料化した酸化チタンナノファイバーの審美材料への応用	柳田 廣明	冠・ブリッジ科	800,000	補委	日本学術振興会
高膨潤性高分子を用いた超低侵襲な骨膜挙上材の開発	西村 正宏	義歯補綴科	1,500,000	補委	日本学術振興会
食事栄養指導ツール開発のための咀嚼・嚥下機能と食事・栄養状態の関連の検討	西 恭宏	義歯補綴科	1,300,000	補委	日本学術振興会
効果的な保湿が口腔乾燥義歯患者の口腔および咽頭の細菌叢を正常化する	村上 格	義歯補綴科	1,000,000	補委	日本学術振興会
イメージ連成バイオメカニクスを応用したインプラント治療における力学的安全性の保証	丸山 浩美	義歯補綴科	300,000	補委	日本学術振興会
2型糖尿病ラットにおけるチタンインプラントの生体力学的・組織形態計測学的分析	橋口 千琴	義歯補綴科	1,600,000	補委	日本学術振興会
口腔癌のリンパ節微小転移に焦点を当てた血流動態変化の流体力学的・画像工学的解析	佐藤強志	顎顔面放射線学	2,800,000	補委	日本学術振興会
28日間宇宙環境に暴露された細胞は細胞死に対し抵抗性を獲得するか?	犬童寛子	顎顔面放射線学	900,000円	補委	日本学術振興会
低線量放射線による細胞の放射線適応応答メカニズムの解明	富田和男	顎顔面放射線学	1,000,000	補委	日本学術振興会
時間分解分光システムを用いた肝組織の酸素化状態の無侵襲的評価法の確立	安田智嗣	集中治療部	1,200,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ohishi M	Department of Geriatric Medicine and Nephrology, Osaka University Graduate School of Medicine	Angiotensin (1-7) and other Angiotensin Peptides.	Current Pharmaceutical Design 2013; 19: 3060-3064.
2	Ohishi M	Department of Geriatric Medicine and Nephrology, Osaka University Graduate School of Medicine	Effect of tablets with a combination of telmisartan and amlodipine on patients with hypertension: The Cotalo study.	Hypertens Res 2013; 36: 620-626.
3	Nakahara M	Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Recombinant thrombomodulin protects mice against histone-induced lethal thromboembolism.	PLoS One 2013; 8: e75961.
4	Suenaga M	Department of Cardiovascular, Respiratory and Metabolic Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Influence of gefitinib and erlotinib on apoptosis and c-MYC expression in H23 lung cancer cells.	Anticancer Res 2013; 33: 1547-1554.
5	Yuasa T	Department of Cardiology, Kagoshima University Hospital	Prosthetic tricuspid valve dysfunction assessed by three-dimensional transthoracic and transesophageal echocardiography.	J Echocardiogr 2013; 11: 97-99.
6	Ichiki T	Cardiorenal Research Laboratory, Division of Cardiovascular Diseases, Mayo Clinic, Rochester, MN 55905, USA. Ichiki.tomoko@mayo.edu	Differential Expression of the Pro-natriuretic Peptide Convertases Corin and Furin in Experimental Heart Failure and Atrial Fibrosis.	Am J Physiol Regul Integr Com Physiol 2013;304:R102-9.
7	Ichiki T	Cardiorenal Research Laboratory, Division of Cardiovascular Diseases, Mayo Clinic, Rochester, MN, United States	Endothelial Permeability in vitro and in vivo: Protective actions of ANP and Omapatrilat in Experimental Atherosclerosis.	Peptides 2013;48C:21-26.
8	Ichiki H	Department of Cardiovascular, Respiratory and Metabolic Medicine, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	The incidence of asymptomatic cerebral microthromboembolism after atrial fibrillation ablation: comparison of warfarin and dabigatran.	Pacing Clin Electrophysiol 2013; 36: 1328-1335.
9	Akasaki Y	Department of Cardiovascular, Respiratory and Metabolic Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Glycolytic fast-twitch muscle fiber restoration counters adverse age-related changes in body composition and metabolism.	Aging Cell 2013; DOI:10.1111/accel.12153.
10	Nakahara M	Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Recombinant thrombomodulin protects mice against histone-induced lethal thromboembolism.	PLoS One 2013 Sep 30;8:e75961.doi:10.1371/journal.pone.0075961.
11	Tokushige A	From the Department of Cardiovascular Medicine and Hypertension (A.T., S.H., M.O.), and Cardiovascular and Gastroenterological Surgery, Advanced Therapeutics Cardiovascular and Respiratory Disorders (Y.I.), Graduate School of	Influence of initial acute myocardial infarction presentation on the outcome of surgical procedures after coronary stent implantation: a report from the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2.	Cardiovasc Interv Ther 2013; 28: 45-55.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

12	Fukuoka Y	Department of Digestive and Life-style Related Diseases, Human Environmental Sciences, Health Research Studies, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effects of a fish-based diet and administration of pure eicosapentaenoic acid on brachial-ankle pulse wave velocity in patients with cardiovascular risk factors.	J Cardiol.2014 Mar;63(3):211-7
13	Ibusuki R	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Transgenic expression of human neutrophil peptide-1 enhances hepatic fibrosis in mice fed a choline-deficient, L-amino acid-defined diet.	Liver Int. 2013 Nov;33(10):1549-56.
14	Mawatari S	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima	Hepatitis C virus NS3/4A protease inhibits complement activation by cleaving complement component 4.	Published: December 12, 2013 DOI: 10.1371
15	Sogabe A	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Correlation of serum levels of complement C4a desArg with pathologically estimated severity of glomerular lesions and mesangial hypercellularity scores in patients with IgA nephropathy.	Int J Mol Med. 2013 Aug;32(2):307-14.
16	Tsubouchi N	Digestive and Lifestyle Diseases, Department of Human and Environmental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Impact of antibody to hepatitis B core antigen on the clinical course of hepatitis C virus carriers in a hyperendemic area in Japan: A community-based cohort study.	Hepatol Res. 2013 Nov;43(11):1130-8.
17	Natsugoe S	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Lymph node micrometastasis in gastrointestinal tract cancer—a clinical aspect.	Int J Clin Oncol. 18:752-761
18	Natsugoe S.	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Where will the concept of lymph node micrometastasis advance?	Int J Clin Oncol. 18:751
19	Ishigami S	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine	Clinical implications of DLL4 expression in gastric cancer.	J Exp Clin Cancer Res;32:46
20	Ishigami S	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine	A case of sudden onset septicemia in recurrent gastric cancer following s1 plus docetaxel treatment.	J Gastric Cancer 13:126-8
21	Ishigami S	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine,	Clinical-pathological implication of human leukocyte antigen-F-positive gastric adenocarcinoma.	J Surg Res 184:802-6
22	Ishigami S	Digestive Surgery Surgical Oncology, Kagoshima University School of	IL-32 expression is an independent prognostic marker for gastric cancer.	Med Oncol 30:472

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

23	Owaki T	Education Center for Doctors in Remote Islands and Rural Areas Graduate School of Medical and Dental Sciences, and	Serum concentrations of antibiotics during severe invasive surgery such as esophagectomy for esophageal cancer.	Int Surg. 98:1-5
24	Okumura H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Prognostic factors in esophageal squamous cell carcinoma patients treated with neoadjuvant chemoradiation therapy.	Int J Clin Oncol. 18:329-34
25	Okumura H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	Biomarkers for predicting the response of esophageal squamous cell carcinoma to neoadjuvant chemoradiation therapy.	Surg Today
26	Nakajo A	Department of Surgical Oncology, Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University	Trans-Oral Video-Assisted Neck Surgery (TOVANS) A new transoral technique of endoscopic thyroidectomy with gasless premandible approach.	Surgical Endoscopy, 27
27	Matsumoto M	Ludwig Institute for Cancer Research, Royal Melbourne Hospital, P.O. Box 2008, Parkville, VIC, 3050, Australia.	Signaling for lymphangiogenesis via VEGFR-3 is required for the early events of metastasis.	Clin Exp Metastasis 30(6):819-832
28	Sakita H	消化器・乳腺甲状腺外科	Metachronous esophageal squamous cell cancer after gastrectomy for gastric cancer.	Esophagus 10:129-134
29	Sakoda M	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine	Pure laparoscopic subsegmentectomy of the liver using a puncture method for the target portal branch under percutaneous ultrasound with artificial ascites.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2013 Apr;23(2):e45-8
30	Sakoda M	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University School of Medicine	Endoscopic versus open radiofrequency ablation for treatment of small hepatocellular carcinoma.	World J Surg. 37:597-601,
31	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Immediate reconstruction using a modified inframammary adipofascial flap after partial mastectomy.	Surgery Today 43:456-60
32	Kijima Y	消化器・乳腺甲状腺外科	Immediate volume replacement using modified free dermal fat graft from lateral abdomen for a patient with early breast cancer.	Int Canc Conf J 82:101-106
33	Kijima Y	消化器・乳腺甲状腺外科	Histological findings of a local adipofascial flap that was implanted during breast conserving surgery.	Modern Plastic Surgery 3:43-46
34	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic breast surgery combining periareolar mammoplasty with a crescent shaped cutaneous flap for early breast cancer in the upper quadrant area.	Surgery Today 43:946-53
35	Mori S	消化器・乳腺甲状腺外科	Reduced port surgery for appendectomy: early experience and surgical technique.	World J Surg Proced. 28; 8-12
36	Uenosono Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Clinical significance of circulating tumor cells in peripheral blood from patients with gastric cancer.	Cancer 119:2398-2991.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

37	Arigami T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Course of Advanced Therapeutics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Clinical Significance of Lymph Node Micrometastasis in Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 20:515-521
38	Arigami T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Feasibility of sentinel node navigation surgery after noncurative endoscopic resection for early gastric cancer.	J Gastroenterol Hepatol. 28:1343-1347
39	Arigami T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Course of Advanced Therapeutics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Clinical significance of stanniocalcin 2 expression as a predictor of tumor progression in gastric cancer.	Oncol Rep. 30:2838-2844
40	Omoto I	消化器・乳腺甲状腺外科	A case of superficial esophageal carcinoma with papilloma resected by en bloc endoscopic submucosal dissection. Esophagus.	Published online: 16 November
41	Hagihara T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Assessment of Sentinel Node Concept in Esophageal Cancer Based on Lymph Node Micrometastasis.	Ann Surg Oncol. 20:3031-3037.
42	Takumi K	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Intrahepatic bile duct adenoma mimicking hepatic metastasis: case report and review of the literature	Magn Reson Med Sci. 2013;12(2):141-5.
43	Sasaki K	Dept. of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University	[A case of esophageal cancer with septic disseminated intravascular coagulation treated with recombinant human soluble thrombomodulin during chemoradiation therapy].	Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Sep;40(9):1213-5.
44	Ishigami S	Dept. of Digestive Surgery, Breast and Thyroid, Kagoshima University School of Medicine	[Outcomes of advanced gastric cancer patients treated with chemoradiation therapy].	Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Jun;40(6):727-31.
45	Hashiguchi M	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medicine and Dental Sciences	Clinical implication of ZEB-1 and E-cadherin expression in hepatocellular carcinoma (HCC)	BMC Cancer. 2013 Dec 5;13:572
46	Sakurai T	Department of Digestive Surgery, and Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	The expression of LC-3 is related to tumor suppression through angiogenesis in esophageal cancer	BMC Cancer. 2013 Dec 5;13:572
47	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic breast surgery combining partial mastectomy with immediate breast reshaping using a keyhole-shaped skin glandular flap for Paget's disease	Surg Today. 2014 Sep;44(9):1783-8
48	Kurahara H	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medical Sciences, Kagoshima University	M2-polarized tumor-associated macrophage infiltration of regional lymph nodes is associated with nodal lymphangiogenesis and occult nodal involvement in pN0 pancreatic cancer	Pancreas. 2013 Jan;42(1):155-9.
49	Kita Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Graduate School of Medicine, Kagoshima University	Clinical significance of ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in superficial esophageal squamous cell carcinoma	Ann Surg Oncol. 2013 May;20(5):1646-52

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

50	Hagihara T	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Assessment of sentinel node concept in esophageal cancer based on lymph node micrometastasis	Ann Surg Oncol. 2013 Sep;20(9):3031-7
51	Kijima Y	Department of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oncoplastic surgery combining partial mastectomy and immediate volume replacement using a thoracodorsal adipofascial cutaneous flap with a crescent-shaped dermis	Surg Today. 2013 Dec 22
52	Shinji Ijichi	Health Service Center, Kagoshima University	Quantitative nature of social vulnerability and autism: an important paradigm shift in the DSM-5 for autism spectrum disorder	ISRN Neurology Article ID 201719 ;1/5,2013
53	Yuan J	神経内科	Novel mutations identified in patients with a mild phenotype of Ullrich congenital muscular dystrophy through targeted next-generation sequencing.	Neurology and Clinical Neuroscience 1:148-153,2013
54	Yuan J	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Novel mutation in the replication focus targeting sequence domain of DNMT1 causes hereditary sensory and autonomic neuropathy IE.	J Peripher Nerv Syst 18(1):89-93,2013
55	Yuan J	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Hereditary sensory and autonomic neuropathy type IID caused by an SCN9A mutation	Neurology 80(18):1641-9,2013
56	Yuan J	Department of Neurology and Geriatrics, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Mitochondrial myopathy with autophagic vacuoles in patients with the m.8344A>G mutation.	J Clin Pathol.66:659-64,2013
57	Okamoto Y.	Department of Molecular and Human Genetics	Curcumin facilitates a transitory cellular stress response in Trembler-J mice.	Hum Mol Genet. 22(23):4698-705,2013
58	Okamoto Y.	Department of Molecular and Human Genetics, Baylor College of Medicine, Houston, Texas, USA	Exonic duplication CNV of NDRG1 associated with autosomal-recessive HMSN-Lom/CMT4D.	Genet Med. 2014 May;16(5):386-94
59	Bakhtiar Y	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Geometric survey on magnetic resonance imaging of growth hormone producing pituitary adenoma	Pituitary. 2014 Apr;17(2):142-9.
60	Campos F	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Thrombin dilution effect on the adhesion strength of fibrin glue soaked sponge and its clinical application	Neurol Med Chir (Tokyo). 2013;53(1):17-20
61	Fujio S	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Severe growth hormone deficiency is rare in surgically-cured acromegalics	Pituitary. 2013 Sep;16(3):326-32.
62	Hanada T	Department of Pharmacology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Development and pharmacological verification of a new mouse model of central post-stroke pain	Neurosci Res. 2014 Jan;78:72-80.
63	Hanaya R	Division of Neurology, The Hospital for Sick Children and The University of Toronto	Total intravenous anesthesia affecting spike sources of magnetoencephalography in pediatric epilepsy patients: focal seizures vs. non-focal seizures	Epilepsy Res. 2013 Aug;105(3):326-36.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

64	Hirano H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Immunoreactivity of Wnt5a, Fzd2, Fzd6, and Ryk in glioblastoma: evaluative methodology for DAB chromogenic immunostaining	Brain Tumor Pathol. 2014 Apr;31(2):85-93.
65	Oyoshi T	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	The assessment of relationship between the skull base development and the severity of frontal plagiocephaly after bilateral fronto-orbital advancement in the early life	Childs Nerv Syst. 2014 Jan;30(1):155-9.
66	Shinsato Y,	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences Kagoshima University	Reduction of MLH1 and PMS2 confers temozolomide resistance and is associated with recurrence of glioblastoma	Oncotarget. 2013 Dec;4(12):2261-70.
67	Tokimura H	Division of Neurosurgery, Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Electrophysiological mapping of the temporal branch of the facial nerve	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2014 Mar;75(2):116-9.
68	Yamahata H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Entry point to the sylvian fissure for the pterional transsylvian approach	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2013 Jul;74(4):228-33
69	Yamahata H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Immunohistochemical expression of thrombomodulin in vestibular schwannoma	Brain Tumor Pathol. 2013 Jan;30(1):28-33.
70	Bohara M	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Mature posterior fossa teratoma mimicking dermoid cyst	Brain Tumor Pathol. 2013 Oct;30(4):262-5.
71	Hanada T	脳神経外科	A patient with sinonasal leiomyoma presenting with exophthalmos: Case report and review of the literature	Neurology Asia
72	Yamahata H	Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Ventral schwannoma of the thoracolumbar spine	Asian Spine J. 2013 Dec;7(4):339-44.
73	Amitani M	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences Kagoshima	The role of leptin in the control of insulin-glucose axis.	Front Neurosci. 2013 Apr 8;7:51
74	Yagi T	Department of Orthodontics, Medical and Dental Hospital, Kagoshima University	The role of zinc in the treatment of taste disorders.	Recent Pat Food Nutr Agric. 2013 Apr;5(1):44-51.
75	Suzuki H	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Ghrelin and cachexia in chronic kidney disease.	Pediatr Nephrol. 2013 Apr;28(4):521-6.
76	Suzuki H	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Cancer cachexia--pathophysiology and management.	J Gastroenterol. 2013 May;48(5):574-94.
77	Suzuki H	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Cancer cachexia pathophysiology and translational aspect of herbal medicine.	Jpn J Clin Oncol. 2013 Jul;43(7):695-705.
78	Amitani H	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Hydrogen improves glycemic control in type1 diabetic animal model by promoting glucose uptake into skeletal muscle.	PLoS One. 2013;8(1):e53913.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

79	Li YX	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Role of musclin in the pathogenesis of hypertension in rat.	PLoS One.2013 Aug 5;8(8):e72004.
80	Yagi T	Department of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics, Medical and Dental Hospital, Kagoshima	The role of ghrelin in patients with functional dyspepsia and its potential clinical relevance.	Int J Mol Med. 2013 Sep;32(3):523-31.
81	Cheng KC	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Opioid micro-receptors as new target for insulin resistance.	Pharmacol Ther.2013 Sep;139(3):334-40.
82	Amitani M	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Plasma klotho levels decrease in both anorexia nervosa and obesity.	Nutrition. 2013 Sep;29(9):1106-9.
83	Amitani M	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Control of food intake and muscle wasting in cachexia.	Int J Biochem Cell Biol.2013 Oct;45(10):2179-85.
84	Li JB	Department of Social and Behavioral Medicine, Division of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effects of aging on the plasma levels of nesfatin-1 and adiponectin.	Biomed Rep. 2014 Jan;2(1):152-156.
85	Cheng KC	Department of Psychosomatic Internal Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental	Silymarin induces insulin resistance through an increase of phosphatase and tensin homolog in Wistar rats.	PLoS One. 2014 Jan 3;9(1):e84550.
86	Yoshino H	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Tumor-suppressive microRNA-143/145 cluster targets hexokinase-2 in renal cell carcinoma.	Cancer Science. 2013; 104: 1567-1574
87	Chiyomaru T	Department of Urology, San Francisco Veterans Affairs Medical Center and University of California San Francisco	Genistein inhibits prostate cancer cell growth by targeting miR-34a and oncogenic HOTAIR.	PloS One. 2013; 8: e70372
88	Yamasaki T	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Tumor-suppressive microRNA-1291 directly regulates glucose transporter 1 in renal cell carcinoma.	Cancer Science. 2013; 104: 1411-1419
89	Yoshino H	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Aberrant expression of microRNAs in bladder cancer.	Nature Reviews Urology. 2013; 10: 396-404
90	Yoshino H	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Epithelial-mesenchymal transition-related microRNA-200s regulate molecular targets and pathways in renal cell carcinoma.	Journal of Human Genetics. 2013; 58: 508-516
91	Chiyomaru T	Department of Urology, San Francisco Veterans Affairs Medical Center and University of California San Francisco	Genistein up-regulates tumor suppressor microRNA-574-3p in prostate cancer.	PloS One. 2013; 8: e58929
92	Nishimura H	Department of Urology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Combination treatment using percutaneous transluminal angioplasty and low-density lipoprotein apheresis in a patient with peripheral arterial disease and a history of chronic hemodialysis.	Journal of Clinical Apheresis. 2013; 28: 330-334

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

93	Hayami H	Urogenital sub-committee and the Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JCS), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID) and The Japanese Society for Clinical Microbiology	Nationwide surveillance of bacterial pathogens from patients with acute uncomplicated cystitis conducted by the Japanese surveillance committee during 2009 and 2010: antimicrobial susceptibility of Escherichia coli and Staphylococcus saprophyticus.	Journal of Infection and Chemotherapy . 2013; 19: 393-403
94	White Yohann	血液・膠原病内科	Effects of exogenous interleukin-7 on CD8(+) T-cell survival and function in human T-cell lymphotropic virus type 1 infection.	Leuk Lymphoma
95	Ezinne CC	血液・膠原病内科	HTLV-1 specific CD8 + T Cell Function Augmented by blockade of 2B4/CD48 Interaction in HTLV-1 Infection.	Plos One
96	Shiokawa N	Department of Psychiatry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Chorein, the protein responsible for chorea-acanthocytosis, interacts with beta-adducin and beta -actin.	Biochem Biophys Res Commun 441, 96-101, 2013 (doi: 10.1016/j.bbrc.2013.10.011)
97	Kodama Y	Department of Paediatrics, National Kyushu Cancer Centre	Re-emerging Philadelphia chromosome-positive acute leukaemia more than 20 years after allogeneic haematopoietic stem cell transplantation	Br J Haematol. 2013 Apr;161(2):286-9.
98	Ninomiya Y	Department of Pediatrics, National Hospital Organization Kagoshima Medical Center	Risk factors for symptoms in long QT syndrome patients in a single pediatric center	Pediatr Int. 2013 Jun;55(3):277-82.
99	Yonee C	Department of Pediatrics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Association of acute cerebellar ataxia and human papilloma virus vaccination: a case report.	Neuropediatrics. 2013 Oct;44(5):265-7.
100	Douchi T	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagoshima University	Annual report of Women's Health Care Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2013.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Feb;40(2):353-9.
101	Yanazume S	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagoshima University	New hemostatic method using Mohs' paste for fatal genital bleeding in advanced cervical cancer.	Gynecol Oncol Case Rep. 2013 Jan 11;4:47-9.
102	Orita Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagoshima University	Decreasing full-term neonatal birthweight over the past 2 decades in a single institute in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2013 Jun;39(6):1173-8.
103	Nakamura S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Arsenic trioxide prevents osteosarcoma growth by inhibition of GLI transcription via DNA damage accumulation.	Plos One 8(7): e69466, 2013
104	Nagano S	Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Castleman's disease in the retroperitoneal space mimicking a paraspinal schwannoma: a case report.	World J Surg Oncol 11:108, 2013
105	Nagano S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Paget disease of bone: clinico-pathological features and efficacy of bisphosphonates in three Japanese cases of the rare entity in eastern countries.	J Orthop Surg (Hong Kong) 21(3):375-379, 2013
106	Nagano S	Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Analysis of surgical site infection after musculoskeletal tumor surgery: risk assessment using a new scoring system.	Sarcoma. 2014;2014:645496
107	Kakoi H	From the Departments of Medical Joint Materials and	Bone morphogenic protein (BMP) signaling up-regulates neutral sphingomyelinase 2 to suppress chondrocyte maturation via the Akt protein signaling pathway as a negative feedback mechanism.	J Biol Chem. 2014 Mar 21;289(12):8135-50.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

108	Yokouchi M	Department of Orthopedic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Early complete remission of osteoid osteoma with conservative medical management.	Pediatr Rep. 2014 Mar 4;6(1):5311.
109	Uchida Y	Department of Dermatology, Kagoshima University Medical School	Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm in a human T-cell lymphotropic virus type I (HTLV-1) carrier: a coincidental association?	Eur J Dermatol. 2013 Apr 1;23(2):250-1.
110	Sakanoue M	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Microcystic adnexal carcinoma arising in a nevus sebaceous.	Indian J Dermatol. 2013 May;58(3):247.
111	Matsushita S	Department of Dermatology, Field of Sensory Organology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima	Possible effectiveness of lymph node dissection in patients with extramammary Paget's disease.	J Dermatol. 2013 Jul;40(7):574-5.
112	Sakanoue M	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Nevus lipomatosus cutaneous superficialis associated with trichofolliculoma on the lower leg.	Indian J Dermatol. 2013 Jul;58(4):330.
113	Katsue H	Department of Dermatology, Field of Sensory Organology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Case of giant sclerosing epithelioid fibrosarcoma with ossification.	J Dermatol. 2013 Aug;40(8):667-8.
114	Yoshifuku A	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Transdermal nicotine patches for eosinophilic pustular folliculitis.	J Dermatol. 2013 Sep;40(9):711-4.
115	Yamasuji Y	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	A case of anaphylaxis caused by polyethylene glycol analogues.	Contact Dermatitis. 2013 Sep;69(3):183-5.
116	Baba N	a Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Japanese black vinegar "Izumi" inhibits the proliferation of human squamous cell carcinoma cells via necroptosis.	Nutr Cancer. 2013;65(7):1093-7.
117	Sakanoue M	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for refractory skin diseases due to activated neutrophils, psoriasis, and associated arthropathy.	Ther Apher Dial. 2013 Oct;17(5):477-83.
118	Tamai M	Department of Dermatology, Field of Sensory Organology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Antimicrobial effect of an ultrasonic levitation washer disinfectant with silver electrolysis and ozone oxidation on methicillin-resistant Staphylococcus aureus.	J Dermatol. 2013 Dec;40(12):1020-6.
119	Higashi Y	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for Behçet's disease in a pregnant woman.	J Dermatol. 2013 Dec;40(12):1042-4.
120	Kubo H	Department of Legal Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Temporal expression of wound healing-related genes in skin burn injury.	Leg Med (Tokyo). 2014 Jan;16(1):8-13.
121	Sakanoue M	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	A Case of Kimura's Disease as Giant Pedunculated Tumors.	Indian J Dermatol. 2014 Jan;59(1):105.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

122	Ibusuki A	Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	NKG2D triggers cytotoxicity in murine epidermal $\gamma \delta$ T cells via PI3K-dependent, Syk/ZAP70-independent signaling pathway.	J Invest Dermatol. 2014 Feb;134(2):396-404.
123	Ki-I Y	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Long-term intraocular pressure changes after combined phacoemulsification, intraocular lens implantation, and vitrectomy.	Jpn J Ophthalmol. 2013 Jan;57(1):57-62.
124	Otsuka H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Particle-induced endophthalmitis: Possible mechanisms of sterile endophthalmitis after intravitreal triamcinolone.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Mar 11;54(3):1758-66.
125	Shirasawa M	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	TNF- α disrupts morphologic and functional barrier properties of polarized retinal pigment epithelium.	Exp Eye Res. 2013 May;110:59-69.
126	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Correlation between reflectivity of subretinal fluid in OCT images and concentration of intravitreal VEGF in eyes with diabetic macular edema.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Aug 9;54(8):5367-74.
127	Yamashita T	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Relationship between position of peak retinal nerve fiber layer thickness and retinal arteries on sectoral retinal nerve fiber layer thickness.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Aug 13;54(8):5481-8.
128	Kamisanuki T	Department of Ophthalmology Faculty of Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medicine and Dental Sciences	A case of Muir-Torre syndrome with multiple cancers of bilateral eyelids and breast.	Korean J Ophthalmol. 2013 Jun;27(3):204-7.
129	Sonoda S	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Responsiveness of eyes with polypoidal choroidal vasculopathy with choroidal hyperpermeability to intravitreal ranibizumab.	BMC Ophthalmol. 2013 Aug 20;13:43
130	Terasaki H	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	TNF- α decreases VEGF secretion in highly polarized RPE cells but increases it in non-polarized RPE cells related to crosstalk between JNK and NF- κ B pathways	PLoS One. 2013 Jul 29;8(7):e69994.
131	Yasutaka Baba	Department of Radiology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Endovascular Treatment of Brachiocephalic and Subclavian Arterial Disease.	Open Journal of Radiology.3(1);7-11,2013. ISSN 2164-3024
132	Kiyohisa Kamimura	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Quantitative evaluation of liver function with T1 relaxation time index on Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI : Comparison with signal intensity-based indices.	J Magn Reson Imaging. 2014 Oct;40(4):884-9.
133	Koji Takumii	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Intrahepatic Bile Duct Adenoma Mimicking Hepatic Metastasis:Case Report and Review of the Literature.	Magn Reson Med Sci.12(2);141-145,2013.
134	Yuichi Kumagae	Department of Radiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Distinguishing adrenal adenomas from non-adenomas on dynamic enhanced CT:A comparison of 5 and 10 min delays after intravenous contrast medium injection.	Clinical Radiology.68(7);696-703,2013.
135	Yasutaka Baba	Department of Radiology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Evaluation of split renal function before and after renal arterial embolization for angiomyolipoma Using absolute ethanol	Cardiovasc Intervent Radiol.36(6);Epub,2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

136	Masatoyo Nakajo	Department of Radiology, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Diagnostic performance of 18F-fluorothymidine PET/CT for primary colorectal cancer and its lymph node metastasis:comparison with 18F-fluorodeoxyglucose PET/CT.	Eur J Nucl Med Mol Imaging.40(8);1223-1232,2013.
137	Masatoyo Nakajo	Department of Radiology, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Diagnosis of metastases from postoperative differentiated thyroid cancer:comparison between FDG and FLT PET/CT studies.	Radiology.267(3);891-901,2013.
138	Godai K	Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Increased carboxyhemoglobin level during liver resection with inflow occlusion	J Anesth. 2013 Apr;27(2):306-8.
139	Kuroki C	Departments of Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	The impact of hypothermia on emergence from isoflurane anestheisa in orexin neuron-ablated mice	Anesth Analg. 2013 May;116(5):1001-5.
140	Hasegawa-Moriyama M	Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Peroxisome proliferator-activated receptor-gamma agonist resiglitazone attenuates inflammatory pain through the induction of heme oxygenase-1 in macrophages.	Pain. 2013 Aug;154(8):1402-12.
141	Nakahara M	Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Recombinat Thrombomodulin Protects Mice against Histone-Induced Lethal Thromboembolism	PLoS One. 2013 Sep 30;8(9):e75961.
142	Yonemitsu T	1] Departments of Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima, Japan [2] Departments of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima, Japan	TRPA1 detects environmental chemicals and induces avoidance behavior and arousal from sleep	Sci Rep. 2013 Oct 31;3:3100.
143	Takahashi Y	Department of Physiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Orexin neurons are indispensable for prostaglandin E2-induced fever and defence against enviromental cooling in mice	J Physiol. 2013 Nov 15;591(Pt 22):5623-43.
144	Kuroki C	Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Perfusion index as a possible predictor for postanesthetic shivering	J Anesth. 2014 Feb;28(1):19-25.
145	Godai K	Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Suspected intraoperative formation of left atrial thrombus in a patient with atrial fibrillation receiving bridging anticoagulation therapy	J Anesth. 2014 Feb;28(1):112-5.
146	Kohjitani A	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Features of lateral cephalograms associated with difficult laryngoscopy in Japanese children undergoing oral and maxillofacial surgery.	Paediatr Anaesth. 2013Nov;23(11):994-1001.
147	Ouchi K	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Dexmedetomidine dose-dependently enhances local anesthetic action of lidocaine.	J Oral Maxillofac Surg. 2014 Mar;72(3):474-80.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

148	Ouchi K	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Establishment of an animal model of sedation using epidural anesthesia that uses the tail-flick test for evaluating local anesthetic effects in rats.	Exp Anim. 2013;62(2):137-44.
149	Kohjitani A	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences.	Associations between the autonomic nervous system and the second derivative of the finger photoplethysmogram indices.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(5):501-8.
150	Shimodozono M	Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Benefits of a repetitive facilitative exercise program for the upper paretic extremity after subacute stroke: a randomized controlled trial.	Neurorehabil Neural Repair. 2013 May;27(4):296-305
151	Etoh S	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effects of repetitive transcranial magnetic stimulation on repetitive facilitation exercises of the hemiplegic hand in chronic stroke patients.	J Rehabil Med. 2013 Sep;45(9):843-7.
152	Shimodozono M	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Repetitive facilitative exercise under continuous electrical stimulation for severe arm impairment after sub-acute stroke: a randomized controlled pilot study.	Brain Inj. 2014;28(2):203-10.
153	Kamikawa Y	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Passive repetitive stretching for a short duration within a week increases myogenic regulatory factors and myosin heavy chain mRNA in rats' skeletal muscles.	ScientificWorldJournal. 2013 May 23;2013:493656.
154	Ikeda S	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Effects of edaravone, a free radical scavenger, on photochemically induced cerebral infarction in a rat hemiplegic model.	ScientificWorldJournal. 2013 Jun 17;2013:175280.
155	Ikeda S	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	The effect of anabolic steroid administration on passive stretching-induced expression of mechano-growth factor in skeletal muscle.	ScientificWorldJournal. 2013 Aug 25;2013:313605.
156	Ikeda S	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Expected for acquisition movement exercise is more effective for functional recovery than simple exercise in a rat model of hemiplegia.	Springerplus. 2013 Oct 7;2:517.
157	Satoshi Ikeda	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Contralateral cortical role on functional recovery in a rat model of hemiplegia.	EXCLI Journal 12: 641-646, 2013
158	Akihiko Ohwatashi	Department of Rehabilitation and Physical Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Exercise enhanced functional recovery and expression of GDNF after photochemically induced cerebral infarction.	EXCLI Journal 12: 693-700, 2013
159	Zulfiqar, M.	Department of Preventive Dentistry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Oral Fusobacterium nucleatum subsp. polymorphum binds to human salivary α -amylase	Mol Oral Microbiol. 2013 Dec;28(6):425-34.
160	Ohmure H	Department of Orthodontics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Influence of experimental esophageal acidification on masseter muscle activity, cervicofacial behavior and autonomic nervous activity in wakefulness	Journal of Oral Rehabilitation 2014 41; 423--431

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

161	Sakaguchi K	Department of Orthodontics, Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University,	Association of problem behavior with sleep problem and gastroesophageal reflux symptoms	Pediatr Int. 2014 Feb;56(1):24-30.
162	Maeda A	Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Department of Orthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Patient with oligodontia treated with a miniscrew for unilateral mesial movement of maxillary molars and alignment of an impacted third molar	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2013 Sep;144(3):430-40.
163	Yagi T	Department of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics, Medical and Dental Hospital, Kagoshima	The role of ghrelin in patients with functional dyspepsia and its potential clinical relevance	Int J Mol Med. 2013 Sep;32(3):523-31.
164	Chiaki Yamada-Ito	Section of Pediatric Dentistry, Division of Oral Health, Growth, and Development, Kagoshima University, Graduate School of Dental Sciences	Smoothness of Molar Movement during Gum Chewing in Children with Primary Dentition	Journal of Craniomandibular Practice, (Accepted on January 21, 2013). 31(4):260-269, 2013.
165	Emi Inada	小児歯科	Relationship between nasal and skeletal landmarks on lateral cephalograms of adults.	Australian Journal of Forensic Sciences (2013.11 accepted), Published online : 24 Feb 2014.
166	Tomonori Iwasaki,	Division of Pediatric Dentistry, Field of Developmental Medicine, Health Research Course, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima, Japan	Relation between maxillofacial form and respiratory disorders in children.	Sleep and Biological Rhythms. (review) (2013.11 accepted)
167	Shirakata Y	Department of Periodontology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effects of enamel matrix derivative and basic fibroblast growth factor with beta-tricalcium phosphate on periodontal regeneration in 1-wall intrabony defects: An experimental study in dogs	Int J Periodontics Restorative Dent. 2013 Sep-Oct;33(5):641-9.
168	Shirakata Y	Department of Periodontology, School of Dental Medicine, University of Bern, Bern, Switzerland; Department of Periodontology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Periodontal healing after application of EMD in surgical supra-infrabony periodontal defects in rats with streptozotocin-induced diabetes	J Periodont Res. 2014 Feb;49(1):93-101.
169	Nakamura T	Department of Periodontology, Kagoshima University, Graduate School of Medical and Dental Sciences	Co-stimulation with bone morphogenetic protein-9 and FK506 induces remarkable osteoblastic differentiation in rat dedifferentiated fat cells	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Oct 18;440(2):289-94.
170	Shirakata Y	Department of Periodontology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	An exploratory study on the efficacy of rat dedifferentiated fat cells (rDFATs) with a poly lactic-co-glycolic acid/hydroxylapatite (PLGA/HA) composite for bone formation in a rat calvarial defect model	J Mater Sci Mater Med. 2014 Mar;25(3):899-908.
171	Shimotahira N	Department of Oral Microbiology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	The surface layer of Tannerella forsythia contributes to serum resistance and oral bacterial coaggregation.	Infect Immun. 2013 Apr;81(4):1198-206.

小計 11

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

172	Sadaaki Murahara	Department of Fixed Prosthetic Dentistry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Effect of adherend temperature on bond strengths of resin bonding systems to denture base resin and a semi-precious alloy.	Dent Mater J. 2013;32(2):341-8.
173	Kenji Sakoguchi	Department of Fixed Prosthetic Dentistry, Advanced Therapeutic Course, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Evaluation of fracture resistance of composite crowns by cyclic impact test: Influence of indirect composite and abutment material.	Dent Mater J. 2013;32(3):433-40.
174	Daisaku Shiomuki	Fixed Prosthetic Clinic, Kagoshima University Medical and Dental Hospital	The influence of light irradiation on polymerization degree of dual-cure cement beneath restorations by measuring Vickers hardness.	Dent Mater J. 2013;32(3):449-55.
175	Murakami M	Department of Oral and Maxillofacial Prosthodontics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Dry mouth and denture plaque microflora in complete denture and palatal obturator prosthesis wearers.	Gerodontology, doi:10.1111/ger.12073
176	Kamikawa Y	口腔外科	Clinical study on anti-fungal drug activity against clinically isolated strains of oral Candida species,	Science International 10(2): 87-94,2013
177	Kamikawa Y	Department of Oral Surgery, Kagoshima University Medical and Dental Hospital	Frequency of clinically isolated strains of oral Candida species at Kagoshima University Hospital, Japan, and their susceptibility to antifungal drugs in 2006-2007 and 2012-2013	BMC Oral Health. 2014 Feb 20;14:14.
178	Kibe T	Department of Biochemistry and Genetics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Japan.	A novel ameloblastoma cell line (AM-3) secretes MMP-9 in response to Wnt-3a and induces osteoclastogenesis.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2013 Jun;115(6):780-8
179	Kume K	Department of Biochemistry and Molecular Biology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	The transcription factor Snail enhanced the degradation of E-cadherin and desmoglein 2 in oral squamous cell carcinoma cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Jan 18;430(3):889-94
180	Ishida T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Notch signaling induces EMT in OSCC cell lines in a hypoxic environment.	Oncol Lett. 2013 Nov;6(5):1201-1206. Epub 2013 Aug 28
181	Nishihara K	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Outcome following secondary autogenous bone grafting before and after canine eruption in patients with unilateral cleft lip and palate.	Cleft Palate Craniofac J. 2014 Mar;51(2):165-71
182	Ishihata K	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 8-35-1 Sakuragaoka, Kagoshima 890-8544, Japan, ishihata@dent.kagoshima-u.ac.jp	Expression of antimicrobial peptides and E-cadherin in periapical lesions	Oral Science International. 2013 May;10(2):70-76
183	Matsumoto K	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Postoperative lip and nose forms following primary bilateral cleft lip repair selecting one/two stage surgery in comparison to those of healthy children	Oral Science International. 2013 May;10(2):77-86

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

184	Fuchigami T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Field of Maxillofacial Rehabilitation; Dr. Nishihara is Assistant Professor, Department of Oral and Maxillofacial Surgery; and Dr. Hasegawa is Associate Researcher, Department of Pediatric Dentistry, Field of Developmental Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Short-term Molding Effects on the Upper Alveolar Arch Following Unilateral Cleft Lip Repair With/Without Nasal Vestibular Expansion.	Cleft Palate Craniofac J. 2013 Sep 6. [Epub ahead of print]
185	Yoshitaka Furukawa	Division of Blood Transfusion Medicine and Cell Therapy, Kagoshima University Hospital	Exacerbation of microcytic anemia associated with cessation of anti-retroviral therapy in an HIV-1-infected patient with beta thalassemia	J Infect Chemother. 2014 Jun;20(6):387-9.
186	Hatanaka K	Department of Molecular and Cellular Pathology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Paratesticular dedifferentiated liposarcoma with leiomyosarcomatous differentiation: a case report with a review of literature.	Diagn Pathol. 2013 Aug 23;8:142.
187	Kawaguchi H	Laboratory of Veterinary Histopathology, Joint Faculty of Veterinary Medicine, Kagoshima University	Sex differences of serum lipid profile in novel microminipigs.	In Vivo. 2013 Sep-Oct;27(5):617-21.
188	Miura N	Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Coagulation activity and white thrombus formation in the microminipig.	In Vivo. 2013 May-Jun;27(3):357-61.
189	Yamada S	Department of Pathology and Cell Biology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health	Histamine receptors expressed in circulating progenitor cells have reciprocal actions in ligation-induced arteriosclerosis.	Pathol Int. 2013 Sep;63(9):435-47.
190	Kitamoto S	Department of Human Pathology, Field of Oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	MUC1 enhances hypoxia-driven angiogenesis through the regulation of multiple proangiogenic factors.	Oncogene. 2013 Sep 26;32(39):4614-21.
191	Kitazono I	Department of Human Pathology, Field of Oncology, and † Cardiovascular and Gastroenterological Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University; ‡Department of Pathology, and § Department of Surgery, Kagoshima-shi Medical Association Hospital	Expression of MUC4 mucin is observed mainly in the intestinal type of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas.	Pancreas. 2013 Oct;42(7):1120-8.
192	Nakahara M	Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Recombinant thrombomodulin protects mice against histone-induced lethal thromboembolism.	PLoS One. 2013 Sep 30;8(9):e75961. doi: 10.1371/journal.pone.0075961
193	Matsumoto K	Department of Clinical Pharmacy and Pharmacology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University	Development of initial loading procedure for teicoplanin in critically ill patients with severe infections.	Biol Pharm Bull. 2013;36(6):1024-6
194	Shrestha C	Department of Systems Biology in Thromboregulation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Saturated fatty acid palmitate induces extracellular release of histone H3: a possible mechanistic basis for high-fat diet-induced inflammation and thrombosis.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Aug 9;437(4):573-8.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

195	Kohjitani A	Department of Dental Anesthesiology, Field of Oral and Maxillofacial Rehabilitation, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences.	Associations between the autonomic nervous system and the second derivative of the finger photoplethysmogram indices.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(5):501-8.
196	Nakahara M	Anesthesiology and Critical Care Medicine, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Recombinant thrombomodulin protects mice against histone-induced lethal thromboembolism.	PLoS One. 2013 Sep 30;8(9):e75961.

合計 196

1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

(注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小藺雅哉	鹿児島大学・消化器疾患・生活習慣病学	高齢者に対する大腸ESDの治療成績と安全性の検討	第58巻第1号 (2014年1月発行)
2	沼田政嗣	鹿児島大学・消化器疾患・生活習慣病学	クローン病に対する生物学的製剤の初回及び再手術に及ぼす影響	消化器内科 57(5), 575-578, 2013-11
3	夏越祥次	消化器・乳腺甲状腺外科	日本の各種癌取扱い規約におけるリンパ節転移の位置づけ.	外科 75:695- 699,2013.
4	上野真一	鹿児島大学臨床腫瘍学	肝MCNの1例:WHO分類第4版に基づいて	胆と脾 34(5): 397-401 2013
5	前村公成	1)鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科 2)鹿児島大学保健学科 3)鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター	ドップラー血流計による術中血管同定法併用腹腔鏡下胆嚢摘出術.	日本臨床外科学会雑誌 Vol. 74 (2013) No. 8 p. 2064-2071
6	奥村 浩	消化器・乳腺甲状腺外科	食道癌術後フォローアップ	外科 75(10), 1047-1050, 2013-10
7	盛 真一郎	消化器・乳腺甲状腺外科	当科で経験したreduced port surgeryに関する検討	手術 巻:67号:2 ページ:237-240 発行年:2013年 02月15日
8	盛 真一郎	消化器・乳腺甲状腺外科	横行結腸癌に対する腹腔鏡補助下中結腸動脈周囲リンパ節郭清の工夫(解説)	手術 巻:67号:9 ページ:1331- 1334 発行年:2013年 08月15日
9	上之園芳一	1鹿児島大学大学院分子応用外科学, 2鹿児島大学大学院消化器・乳腺甲状腺外科学	上部消化器癌におけるセンチネルリンパ節理論に基づく外科治療	リンパ学 36(1): 2-5, 2013.
10	上之園芳一	鹿児島大学大学院分子応用外科学	胃癌におけるSentinel Node理論に基づく微小転移診断と臨床的意義.	リンパ学 36(2): 99-102 2013
11	上之園芳一	鹿児島大 消化器・乳腺甲状腺外科学	食道癌のsentinel node navigation surgery	手術. 67: 1473- 1477 発行年: 2013年09月15日.
12	佐々木 健	鹿児島大学大学院消化器乳腺甲状腺外科学 鹿児島大学大学院消化器乳腺甲状腺外科学 鹿児島大学大学院消化器乳腺甲状腺外科学	食道癌化学放射線治療中のDICに対し組換えヒト可溶性トロポモジュリンが奏効した1例	癌と化学療法 2013年 40巻9号 p. 1213-1215

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

13	又木雄弘	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科消化器・乳腺甲状腺外科,*2鹿児島大学医学部保健学科,*3鹿児島大学大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学,*4鹿児島大学大学院医歯学総合研究科人体がん病理学,*5鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター	術前化学(放射線)療法を行った切除可能および境界腺癌の検討	癌と化学療法 2013年 40巻12号 p. 1637-1640
14	夏越祥次	消化器・乳腺甲状腺外科	食道癌の集学的治療-歩んできた道、歩む道-	日本外科系連合学会誌 Vol. 38 (2013) No. 4 p. 932-933
15	新田吉陽	鹿児島大学大学院腫瘍学講座消化器・乳腺甲状腺外科学	原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった乳癌甲状腺転移の1例	日本臨床外科学会雑誌 Vol. 74 (2013) No. 12 p. 3252-3257
16	橋口真征	1)鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科学 2)鹿児島大学人体がん病理学	肝原発mucosa-associated lymphoid tissueリンパ腫の1切除例	日本消化器外科学会雑誌 46(1): 50-57
17	橋口真征	1)鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科学 2)鹿児島大学臨床腫瘍学	門脈枝塞栓術を併用した手術による両葉多発fibrolamellar hepatocellular carcinomaの長期生存の1例	日本消化器外科学会雑誌 46: 822-829
18	尾本至	消化器・乳腺甲状腺外科	癌に伴う食欲不振と悪液質患者におけるグレリンとチロシン含有ペプチド発現の臨床的意義(Clinical significance of ghrelin and peptide tyrosine expression in patients with cancer-related anorexia/cachexia syndrome)	日本外科学会雑誌(0301-4894)115巻臨増2 Page869(2014.03)
19	岡本裕嗣	(鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 神経病学 神経内科 老年病学 分野)	高CK血症を伴う新しいミトコンドリア病	Annual Review 神経 2013中外医学;230-237,2013
20	高嶋博	神経内科	運動感遺伝性覚性ニューロパチー	内科学書 改訂第8版 中山書店; 428-433,2013
21	松浦英治	神経内科、難治研	HTLV-1と筋炎	Clinical neuroscience 中外医学社; 322-333,2012
22	樋口逸郎	神経内科	全身こむら返り(里吉病)	今日の神経疾患治療指針第2版 医学書院 817-819,2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

23	樋口逸郎	神経内科	ullricg. ベスレムミオパチー	筋疾患診療ハンドブック 中外医学社;165-170,2013
24	樋口逸郎	神経内科	骨格筋の形態と機能	内科学 第10版 朝倉書店;1318-1319, 2013
25	樋口逸郎	神経内科	グリコーゲン病(糖尿病)	内科学 第10版 朝倉書店;2342-2343, 2013
26	松崎敏男	神経内科、難治研	HTLV-1関連脊髄症 疾患・症状別	今日の治療と看護 改訂第3版 南江堂;703-704,2013
27	渡邊 修	神経内科	神経感染症	改訂第8版 内科学書Vol.6 中山書店; 273-279,2013
28	渡邊 修	1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経学講座神経内科・老年病学	Isaacs症候群とMorvan症候群	免疫性神経疾患ハンドブック 南江堂;285-295,2013
29	樋口逸郎	神経内科	神経・精神疾患マニュアル	日本医師会雑誌 第142巻・特別号(2)S236-237,2013
30	松崎敏男	鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター	HTLV-1関連脊髄症(HAM)と妊娠・出産	神経内科 78(5);509-513,2013
31	大窪隆一	神経内科	進行期パーキンソン病治療の実践	PD Community 座談会第5回 1/8,2013
32	渡邊 修	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院脳神経センター神経内科	自己免疫性脳炎の広がりとその進歩	心身医学 53(10);913-920,2013
33	渡邊 修	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経内科・老年病学	「VGKC抗体」と神経疾患	神経内科 79(3);319-326,2013
34	渡邊 修	神経内科老年病学	VGKC関連抗体	Brain and Nerve65(4);401-411,2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

35	渡邊 修	神経内科老年病学	抗VGKC複合体抗体関連症候群	最新医学68(7) 147-152,2013
36	渡邊 修	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経内科・老年病学	抗VGKC複合体抗体と免疫性神経疾患とアフェシス	日本アフェシス学会雑誌 32(3);185-190,2013
37	出口尚寿	神経内科、糖尿病・内分泌内科	糖尿病性筋萎縮症:病態と治療	糖尿病合併症 27(2);173-177,2013
38	出口尚寿	神経内科、糖尿病・内分泌内科	糖尿病性神経障害臨床のピットフォール:運動障害を示す糖尿病患者をどうみるか 1. 糖尿病臨床の立場から	月刊糖尿病 5(7);65-72,2013
39	出口尚寿	神経内科、糖尿病・内分泌内科	糖尿病神経障害の発症機序とその予防	PRACTICE30(4);4 37-44,2013
40	荒田 仁	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科神経内科・老年病学	神経疾患のバイオマーカーの新展開	日本内科学会雑誌 102(12), 3174-3182, 2013-12-10
41	中村友紀	鹿児島大 神経内科・老年病学	特集「臨床に役立つ神経筋電気診断」 ミオトニア・周期性四肢麻痺症候群	臨床神経生理学 41(2);118-123,2013
42	平野隆城	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 神経病学 神経内科・老年病学 分野	南九州地域の遺伝性脊髄小脳変性症 -疾患の特徴と遺伝子診断-	神経内科 78(3);257-264,2013
43	野妻智嗣	鹿児島大学大学院 神経内科・老年病学	対麻痺	Clinical Neuroscience31;5 56-567,2013
44	谷川健悟	鹿児島大 大学院医歯学総合 研究科 呼吸器内科	好酸球性肉芽腫性多発血管炎(eosinophilic granulomatosis with polyangitis : EGPA)にIgG4関連疾患様の所見を呈した1例	日本内科学会雑誌 102(12), 3219-3222, 2013-12-10
45	町田健太郎	鹿児島大 大学院医歯学総合 研究科 呼吸器内科	専門医のためのアレルギー-学講座 XIV. アレルギー-基礎研究の最近進歩. 気道免疫と喘息	アレルギー 62(12), 1565-1574, 2013-12-30
46	佐藤雅美	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器外科学分野	喀痰細胞診で分かること	呼吸 32(1): 62 - 69 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

47	佐藤雅美	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器外科学分野	気管支繊毛可視化の夢	呼吸 32(5): 395-396, 2013
48	原田亜矢	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器外科学分野	慢性膿胸に対する持続陰圧吸引療法の検討	鹿児島県臨床外科学会誌 巻:24 ページ:2-3 発行年:2013年 03月25日
49	佐藤雅美	呼吸器外科	肺癌切除後に出現した単発肺腫瘍 討論2	胸部外科(Vol.66 No.5) 2013年5月号
50	小山 憲一郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会行動医学講座心身内科学分野	高齢者医療に必要な心身医学的知識 心身医学分野で若年の心理士が高齢者の心理的援助について悩み、学んだこと 認知行動療法の理論、技法を活かしながら	心身医学(0385-0307)53巻4号 Page325-333(2013.04)
51	蔡 明倫	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 心身内科学	【栄養代謝制御における消化管生理活性ペプチドの役割】PYY・PPの食欲抑制作用と臨床応用	臨床消化器内科(0911-601X)28巻6号 Page705-711(2013.05)
52	鈴木 甫	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野	【栄養代謝制御における消化管生理活性ペプチドの役割】グレリンと食欲亢進作用と脳腸相関	臨床消化器内科(0911-601X)28巻6号 Page659-666(2013.05)
53	網谷 東方	児島大学病院心身医療科、鹿児島大学医歯学総合研究科心身内科学分野	心療内科の立場からみるFD診療	消化器心身医学(1340-8844)20巻1号 Page1-5(2013.08)
54	網谷 東方	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心身内科学分野	摂食障害の治療の進歩 神経性食欲不振症におけるアディポネクチン3分画の検討	心身医学(0385-0307)53巻9号 Page826-833(2013.09)
55	米田 孝一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心身内科学	神経疾患診療の進歩 脳機能を評価するための手法の進歩	心身医学(0385-0307)53巻10号 Page926-930(2013.10)
56	米田 孝一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会・行動医学講座心身内科学分野	【Cachexiaと栄養管理】緩和ケアチームからみたcachexiaへのアプローチ	栄養-評価と治療(0915-759X)30巻4号 Page298-300(2013.11)
57	網谷 真理恵	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会・行動医学講座心身内科学分野	【Cachexiaと栄養管理】Cachexiaの新しい治療	栄養-評価と治療(0915-759X)30巻4号 Page293-297(2013.11)
58	鈴木 甫	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心身内科学分野	【Cachexiaと栄養管理】Cachexiaの診断、病態と治療	栄養-評価と治療(0915-759X)30巻4号 Page268-271(2013.11)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

59	米田 孝一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心身内科学	心身症としてのFGIDと治療薬の使い方	カレントセラピー (0287-8445)31巻12号 Page1252-1257(2013.12)
60	春田 いづみ	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院心身医療科	摂食障害の治療開始時における留意点および合併症の予防	心身医学(0385-0307)53巻12号 Page1125-1130(2013.12)
61	春田 いづみ	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院心身医療科	心身相関の科学-ここまでわかった感覚・食欲・睡眠・疲労・発熱の心身相関 2章:食欲と心身相関-肥満と摂食障害	診断と治療社 ページ14-27(2013)
62	春田 いづみ	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院心身医療科	新しい診断と治療のABC78 心身症 第4章 心身症各論:消化器系心身症	最新医学社 ページ76-89(2013)
63	乾 明夫	鹿児島大学大学院 心身内科学	がん患者における代謝・栄養管理 悪液質の治療、特に抑うつとの関連から	静脈経腸栄養 (1344-4980)29巻1号 Page216(2014.01)
64	楠本 朗	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野	メンタルヘルス健診の問題点についてー鹿児島県における労働者のメンタルヘルスの取り組みを通してー	臨床精神医学 42, 1193-1199, 2013
65	楠本 朗	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野	職場不適応事例に対する治療的アプローチ	臨床精神医学 42, 1231-1237, 2013
66	吉野裕史	鹿児島大学大学院 泌尿器科学 医員	マイクロ RNA 発現プロファイルを起点とした膀胱癌における分子ネットワークの解明	西日本泌尿器科. 2013; 75: 187-194
67	速見浩士	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科腫瘍学講座泌尿器科学分野	九州地方における間質性膀胱炎の実態調査 - 第16回九州泌尿器科共同研究 -	西日本泌尿器科. 2013; 75: 522-531
68	西尾善彦	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学分野	DHAによる酸化ストレス抑制	内分泌・糖尿病・代謝内科 36(6), 524-529, 2013-06
69	西尾善彦	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学	n-3多価飽和脂肪酸による血管内皮 Keap1-Nrf2システム活性化の機序とその意義	Therapeutic Research 2013年 34巻7号 p. 911 - 916
70	西尾善彦	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科糖尿病内分泌内科学	糖尿病の臨床検査: HbA1cをめぐる話題	日本内科学会雑誌 巻:102 号:12 ページ:3110-3116 発行年: 2013年12月10日.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

71	西尾善彦	鹿児島大学 大学院糖尿病内分泌内科学	糖尿病合併症に関する新たな展開 歯周病	内科(0022-1961)113巻1号 Page77-81(2014.01)
72	出口尚寿	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学	糖尿病内科の立場から	糖尿病 5(7), 65-72, 2013-07
73	出口尚寿	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学	糖尿病神経障害に伴う疼痛の管理	Therapeutic Research 34(9): 1227-1235, 2013.
74	出口尚寿	鹿児島大学病院血液・内分泌・糖尿病センター糖尿病・内分泌内科	糖尿病と自己免疫性ニューロパシー	BRAIN and NERVE 第66巻第2号(2014/2/1)
75	橋口裕	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学	薬剤による食後高血糖治療(総論)どの患者にどの方法が適切か	月刊糖尿病 巻:5号:12 ページ:45-51 2013年12月01日 2013年12月01日
76	加治 建	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 小児外科学	【小児NST病態栄養シリーズ:在宅栄養のすべて】離島の地域連携ネットワーク 鹿児島県の離島在住者に対する支援の現況について	小児外科 巻:45号:12 ページ:1300-1303 発行年:2013年12月25日
77	加治 建	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 小児外科学	【在宅静脈経腸栄養 今日の進歩】(Part-7)短腸症候群に対する在宅栄養管理 短腸症候群症例に対する在宅栄養管理の検討	臨床栄養:2013年8月
78	松藤 凡	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児外科学分野	小児がんとトータル・ケア(Total Care)	心身医学 [巻号一覽] 心身医学 53(9), 812-818, 2013-09-01
79	林田 良啓	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 小児外科学	【プロが見せる手術シリーズ(2):難易度の高い消化管手術】Apple peel型高位空腸閉鎖症	小児外科 巻:45号:8 ページ:822-824 発行年:2013年08月25日
80	大西 峻	鹿児島大学小児外科	先天性空腸狭窄症の臨床像に関する検討	日本小児外科学会雑誌 = Journal of the Japanese Society of Pediatric Surgery 49(2), 195-200, 2013-04-20
81	戸上真一	鹿児島大学 産婦人科	当科における早期子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮体癌根治手術の導入と先進医療承認	鹿児島産科婦人科学会雑誌 22, 1-3, 2013
82	神尾真樹	鹿児島大学 産婦人科	当科における術前合併症に関する検討	鹿児島産科婦人科学会雑誌 22, 15-18, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

83	河村俊彦、戸	産婦人科	性交後に重篤な大陰唇血腫を認めた一例	鹿児島産科婦人科学会雑誌22巻 Page23-25(2014.03)
84	沖利通	鹿児島大 病院 女性診療センター	不妊治療において気血水の異常のうち、どの異常を優先して治療すべきか?	産婦人科漢方研究のあゆみ 号: 30 ページ:48-52 発行年:2013年 04月10日
85	堂地勉	鹿児島大 医 産科婦人科	肥満の性機能に及ぼす影響	心身医学 巻: 53 号:7 ページ:640-645 発行年:2013年 07月01日
86	松下 茂人	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科皮膚科	【Oncoplastic Skin Surgery -私ならこう治す!】会陰部に生じた皮膚悪性腫瘍切除後の再建	PEPARS(1349-645X)76号 Page58-66(2013.04) 抄録を見る
87	金蔵 拓郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学	【皮膚難病とアフェレシス】皮膚疾患に対する顆粒球吸着除去療法	日本アフェレシス学会雑誌 32(2), 124-129, 2013-05-31
88	松下 茂人	皮膚科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】悪性黒色腫 悪性黒色腫の治療 外科的治療 遠隔転移巣の手術	日本臨床
89	松下 茂人	皮膚科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】有棘細胞癌(日光角化症・Bowen病)先行病変 Bowen病 治療 外科的治療	日本臨床
90	河井 一浩	皮膚科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】皮膚の悪性リンパ腫 取扱い規約と診療ガイドライン	日本臨床
91	河井 一浩	皮膚科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】皮膚の悪性リンパ腫 病期分類と予後	日本臨床
92	松下 茂人	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学	私の実践しているALMの手術 考え方、工夫、こだわり 足底原発ALM 腫瘍の特性と足底機能のバランスを考慮して	Skin Cancer Vol. 28 (2013) No. 2 P 147-149
93	鮫島誠治	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻感覚器病学講座眼科学分野	眼窩内神経鞘腫に伴う高度の外斜視に上下直筋全幅移動術が奏効した1例	臨床眼科 67(7), 1101-1105, 2013-07
94	福倉良彦	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻腫瘍学講座放射線診断治療学教室	胆道非腫瘍性病変の画像診断—胆道腫瘍性病変との鑑別疾患として—	臨床画像. 29(4); 436-445, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

95	福倉良彦	1)鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻腫瘍学講座放射線診断治療学教室、2)鹿児島大学病院臨床技術部放射線部門	Gd-EOB DTPA造影MRIにおけるT1 mapの肝機能評価への応用(解説).	映像情報 Medical.45(14);100-104,2013.
96	榎畑京	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻生体機能制御学講座侵襲制御学(麻酔・蘇生学教室)	術中酸化ストレス物質産生に対する麻酔法の影響-レミフェンタニルと硬膜外麻酔の比較-	麻酔 63(3): 328-332, 2014.
97	大内謙太郎	鹿児島大 大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 顎顔面機能再建学 歯科麻酔全身管理学分野	歯科治療中に誤嚥したブリッジが左下葉気管支に嵌入了1例	日本歯科麻酔学会雑誌 巻:41号:3 ページ: 294-295 発行年:2013年07月15日
98	下堂 蘭恵	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	片麻痺上肢機能回復のエビデンス 促通反復療法	総合リハビリテーション 41(4): 323-327, 2013
99	下堂 蘭恵	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	脳可塑性がもたらすリハビリテーション医学へのインパクト 促通反復療法:最近の知見	Japanese Journal of Rehabilitation 50(9): 707-711, 2013
100	下堂 蘭恵	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	促通反復療法の治療成績と効果的な併用療法の開発	臨床神経学 53(11): 1267-1269, 2013
101	衛藤誠二	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	経頭蓋磁気刺激の臨床応用	日本温泉気候物理医学会雑誌 76(4): 293-296, 2013
102	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	【経頭蓋磁気刺激の臨床応用update】反復経頭蓋磁気刺激と促通反復療法の併用療法.	神経内科 80(3): 338-346, 2014
103	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	【リハビリテーションにおける臨床神経生理学】臨床神経生理学的検査 後期応答 F波、H波、T波、A波について	MEDICAL REHABILITATION 166号: 33-38, 2014
104	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	【加速度トレーニング-スポーツ医科学分野での有用性-】脳卒中片麻痺患者に対する全身振動刺激としての加速度トレーニングの抗痙縮効果	臨床スポーツ医学 30(6): 523-530, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

105	長谷場純仁	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	小児心臓血管外科術後患者に対する人工呼吸器からの離脱を目的とした呼吸理学療法の効果と課題—2症例を通して—	鹿児島リハビリテーション医学研究会誌 24(1): 27-30, 2013
106	西倫史	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	ロボットスーツHALと歩行促進法の併用効果: 脳卒中片麻痺者での検討	第29回日本義肢装具学会学術大会講演集 Vol.29 (special issue): 330, 2013
107	廣川琢也	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	脳卒中片麻痺患者に対する体幹への促進反復療法の効果 ランダム化比較試験による検討	理学療法学 40(7): 457-464, 2013
108	廣川琢也	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	ロボットスーツHALと歩行促進法の併用効果: 健常人での検討	第29回日本義肢装具学会学術大会講演集 Vol.29 (special issue): 329, 2013
109	鎌田克也	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	左半側空間無視の視覚認知機能と体幹機能に対するコンピュータ化視覚運動課題の効果について	鹿児島高次脳機能研究会誌 24(1): 24-27, 2013
110	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	膝装具装着歩行時の脳活動評価: 機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いた検討	鹿児島リハビリテーション医学研究会誌 24(1): 35-39, 2013
111	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	短下肢装具が脳活動に及ぼす影響: 機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いた検討(第2報).	第29回日本義肢装具学会学術大会講演集 Vol.29 (special issue): 214, 2013
112	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	膝装具装着歩行時の脳活動評価: 機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いた検討	第29回日本義肢装具学会学術大会講演集 Vol.29 (special issue): 213, 2013
113	松元秀次	鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	手スプリント療法による長期的痙縮抑制効果: 誘発電位F波を用いた検討	第29回日本義肢装具学会学術大会講演集 Vol.29 (special issue): 120, 2013
114	八木孝和	鹿児島大 医・歯 病院 発達系歯科セ 矯正歯科	従来の固定式大臼歯遠心移動装置とスケレタルアンカレッジ装置の臼歯部と前歯部への治療効果に関する系統的レビュー	九州矯正歯科学会雑誌 巻:9 号: 1 ページ: 1-16 発行年: 2013年 12月31日
115	宮脇正一	矯正歯科	増える逆流性食道炎—逆流性食道炎と歯科	歯科衛生士
116	梶原武弘	保存科	歯根の穿孔部をMTAで封鎖することで長期保存を可能にする	鹿児島県歯科医師会会報 108:8-10, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

117	柳田廣明	冠・ブリッジ科	歯科補綴治療におけるレジンコーティング	日歯理工誌, 32: 13-16, 2013.
118	西村正宏	義歯補綴科	骨増生に向けた顎骨骨髓液採取と間質細胞培養法	日本口腔インプラ ント学会雑誌, 26, 668-675, 2013.
119	西 恭宏	義歯補綴科	欠損の拡大を防ぐ一部分床義歯における残存歯の保全ための基本事項と現在の考え方	補綴臨床, 2014; 47(1): 70-81
120	村上 格	義歯補綴科	顎欠損患者と口腔乾燥—簡便な評価方法と口腔細菌叢に及ぼす影響—	歯界展望別冊 お口の健康 全身 元気, 医歯薬 出版 2013;p258
121	加地彰人	義歯補綴科	無歯顎者の嚥下における義歯人工歯列の意義	歯界展望別冊 お口の健康 全身 元気, 医歯薬 出版 2013;p 245.
122	丸山浩美	義歯補綴科	FRCクラスプの臨床応用の実際	歯界展望別冊 お口の健康 全身 元気, 医歯薬 出版 2013;p 172.
123	村田比呂司	義歯補綴科	義歯安定剤の正しい使い方と患者指導	歯界展望特別号 2013, p258, 2013.
124	西村正宏	義歯補綴科	顎骨骨髓由来間質細胞を用いた骨再生医療の開発	歯界展望特別号 2013, p283, 2013.
125	西村正宏	義歯補綴科	顎骨骨髓間葉系幹細胞を用いた顎堤増生治療の開発	鹿児島県歯科医 師会報,112, p11- 13, 2013.
126	山口孝二郎	口腔外科	半夏厚朴湯が奏効した口腔異常感症の1例	日本東洋心身医 学研究 2013;27 (1・2):57-60.
127	郎、嶋田昌彦、	口腔外科	鼎談 口腔の症状から全身をみる	漢方と診療 2013; 14巻4 (2):2-13
128	山口孝二郎	口腔外科	シリーズ漢方診療外来 鹿児島大学病院漢方診療センター 院内の横系として 柔軟な連携を目指す 各科に有用な漢方治療法を提示したい	漢方と診療 2013;13巻4(1): 72-76

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

129	上川善昭	口腔外科	口腔カンジダ症になりやすい患者	歯科衛生士,37(4):66-75,2013.
130	上川善昭	口腔外科	口腔カンジダ症対策・周術期緩和期の口腔カンジダ症へのアプローチ	歯界展望, 122(3):514-524,2013
131	緒方祐子	口腔顎顔面外科	口唇裂・口蓋裂における構音重症度評価の試み-構音正発率と構音点の後方化による評価	日本口蓋裂学会雑誌 2013; 38:77-85
132	大河内孝子	口腔顎顔面外科	小児期の片側性唇裂外鼻二次修正術の三次元的解析.	日本口腔外科学会雑誌 2013; 59(5): 301-310
133	下松孝太	口腔顎顔面外科	顔面変形を生じた小児の上顎骨腺腫様歯原性腫瘍の1例	小児口腔外科学会雑誌 20213; 23(3): 212-217
134	下田平 貴子	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 臨床技術部 歯科衛生部門	歯学部附属病院における目標管理の導入と評価	日本歯科衛生学会雑誌 7(2), 73-85, 2013-02
135	長谷場純仁	臨床技術部リハビリテーション部門	小児心臓血管外科術後患者に対する人工呼吸器からの離脱を目的とした呼吸理学療法の効果と課題—2症例を通して—	鹿児島リハビリテーション医学研究会誌
136	廣川 琢也	1)鹿児島大学医学部・歯学部附属病院霧島リハビリテーションセンターリハビリテーション室, 2)鹿児島大学大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座リハビリテーション医学	脳卒中片麻痺患者に対する体幹への促通反復療法の効果: ランダム化比較試験による検討	理学療法学 40(7): 457-464 2013
137	野間知一	鹿児島大 医・歯 病院 霧島リハビリテーションセ)	【OTの臨床実践に役立つ理論と技術-概念から各種応用まで】(第2章)中枢神経系に関するもの 促通反復療法(川平法)	作業療法ジャーナル 巻:47 号:7 ページ:661-665 発行年:2013年 06月20日
138	川原 浩	鹿児島大学病院臨床技術部放射線部門	動画サーバーシステムを用いた被ばく線量管理のうんよう	放射線防護分科会誌 (36), 67-68, 2013-04-11
139	徳重 沙織	1鹿児島大学病院臨床技術部検査部門, *2鹿児島大学大学院循環器・呼吸器・代謝内科学, *3鹿児島大学医学部保健学科	悪性腫瘍に合併した深部静脈血栓症の3例 ~肺塞栓症発症と関連して~	超音波検査技術 38(1): 36-45 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

140	谷口賢二郎	鹿児島大 医歯 病院 臨床技術部 臨床工学部門	敗血症治療における臨床工学技士の役割と血液浄化法の現状について	エンドトキシン血症救命治療研究会誌 巻:17 号:1 ページ:42-46 発行年:2013年 10月31日
141	楠本 朗	神経科精神科	メンタルヘルス健診の問題点について—鹿児島県における労働者のメンタルヘルスの取り組みを通して—	臨床精神医学 42, 1193-1199, 2013
142	楠本 朗	神経科精神科	職場不適應事例に対する治療的アプローチ	臨床精神医学 42, 1231-1237, 2013
143	中山歩	歯科総合診療部	CBT問題作成が教員意識に与える影響	日本歯科医学教育学会誌 2013; 29(2): 106-111.
144	諏訪素子	歯科総合診療部	鹿児島大学病院歯科医師臨床研修の研修修了者による評価	日本総合歯科協議会雑誌 2013; 5: 35-38.
145	榎本勝	歯科総合診療部	研修歯科医の研修の満足度に影響する因子	日本総合歯科協議会雑誌 2013; 5: 57-60.
146	志野久美子	歯科総合診療部	鹿児島大学病院における離島診療研修の現状分析	日本総合歯科協議会雑誌 2013; 5: 108-110.
147	垣花泰之	集中治療部	集中治療 呼吸・循環管理(解説)	麻酔科学レビュー 2014巻 Page260- 265(2014.02)
148	垣花泰之	集中治療部	集中治療 ICUにおける周術期管理(解説)	救急・集中治療 医学レビュー 2014-'15 Page307- 311(2014.02)
149	垣花泰之	集中治療部	【敗血症ショックの新たな理解と集学的治療法】臨床 初期輸液蘇生(解説/特集)	化学療法の領域 (0913-2384)30巻 4号 Page642- 649(2014.03)
150	垣花 泰之	集中治療部	周術期および重症患者管理におけるデクスメトミジンの役割(解説)	臨床麻酔(0387- 3668)38巻臨増 Page381- 390(2014.03)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

151	安田 智嗣	集中治療部	血行動態の維持と補助療法 血管収縮薬と強心薬療法(【SSCG 2012】 Hemodynamic Support and Adjunctive Therapy: Vasopressors, inotropic therapy)(解説/特集)	救急医学(0385-8162)37巻11号 Page1467-1473(2013.10)
152	垣花 泰之	集中治療部	【腎臓を守れ!麻酔科医】腎保護作用があるとされる薬物を検証する 明確なエビデンスは見いだせないが、期待がもてるものもある(解説/特集)	LiSA(1340-8836)20巻10号 Page968-972(2013.10)
153	垣花 泰之	集中治療部	【敗血症性DICと臓器不全】敗血症性心筋障害(解説/特集)	Thrombosis Medicine(2186-0327)3巻3号 Page221-225(2013.09)
154	垣花 泰之	集中治療部	【ICU・CCU看護の超重要ポイントマスターブック 集中治療看護がまるごとわかる!】(第1部)ICU・CCUにおける看護 術後の管理・看護 一般外科術後(解説/特集)	呼吸器ケア (1347-7285)2013 合同臨時増刊 Page132-139(2013.06)
155	垣花 泰之	集中治療部	【重症感染症の病態と治療-最近の進歩】感染性多臓器不全の病態(解説/特集)	ICUとCCU(0389-1194)37巻4号 Page255-262(2013.04)

合計 15!

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 研究計画立案後の審査承認までの流れについて記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 利益相反の目的・定義、委員会の設置、指導、情報開示等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	平成26年5月に利益相反委員会の設置、現在規則整備中であり今年度中開催予定であるが月は未定

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	平成26年11月, 平成27年2月 開催予定
・研修の主な内容 臨床研究の基礎、研究倫理、GCPについて	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師として共通に求められている基礎的知識、技術、マナー等の修得を目指したいわゆる初期臨床研修（2年間）を終了した医師は、その後も引き続き研修を行うことになるが、（各診療科により異なるが通算して概ね5～6年の研修期間）その間、各科の指導医のもと入院患者及び外来患者の診療に従事するとともに、症例検討会、抄読会並びに種々のカンファレンス等に参加することにより一層の研鑽を行うことはもとより、地域のメディカルセンターとしてより先端的な医療の開発、研究を行っているとともに、それぞれの専門的な高度の知識と技術の修得に努めている。

また、それぞれの科の標榜するための条件となると思われる各科関連学会の定める専門医、認定医の資格取得のための指導体制も十分に整っている。

その他、日進月歩の医学の世界において医師の生涯学習の観点から、地域の病院との連携を促進し地域医療の発展に寄与することを目的とした「研修登録医」制度を設け、本学医学部附属病院において病棟回診、症例検討会その他の研究会並びに患者の診療等に参加することを通じて、先端的な知識や技術を修得するために1年間の研修を行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	163人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大石 充	心臓血管内科	教授	26年	
井戸 章雄	消化器内科	教授	29年	
高嶋 博	神経内科	教授	24年	
井上 博雅	呼吸器内科	教授	27年	
乾 明夫	心療内科	教授	36年	
西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	教授	29年	
有馬 直道	血液・膠原病内科	教授	40年	
井本 浩	心臓血管外科	教授	34年	
夏越 祥次	消化器外科	教授	33年	
有田 和徳	脳神経外科	教授	31年	
佐藤 雅美	呼吸器外科	教授	32年	
永野 聡	整形外科	講師	15年	
河野 嘉文	小児科	教授	34年	
金蔵 拓郎	皮膚科	教授	31年	
中川 昌之	泌尿器科	教授	33年	
堂地 勉	産科	教授	37年	
堂地 勉	婦人科	教授	37年	
坂本 泰二	眼科	教授	29年	
黒野 祐一	耳鼻咽喉科	教授	34年	
吉浦 敬	放射線科	教授	25年	
上村 裕一	麻酔科	教授	34年	
佐野 輝	精神科	教授	32年	

垣花 泰之	救急科	教授	29年
下堂 蕙	リハビリテーション科	教授	24年
南 弘之	歯科	教授	26年
馬嶋 秀行		教授	33年
糀谷 淳		准教授	24年
西 恭宏		准教授	28年
宮脇 正一	矯正歯科	教授	26年
山崎 要一	小児歯科	教授	31年
今村 晴之	歯科口腔外科	助教	26年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
1) ・研修の主な内容 臍頭十二指腸切除術を安全に行う為の講義 ・研修の期間・実施回数 H25. 4. 1～H26. 3. 31・3回 ・研修の参加人数 24人
2) ・研修の主な内容 看護師に対する小児科診療全般にわたる病棟及び外来での勉強会 ・研修の期間・実施回数 平成25年4月～平成26年3月 月1-2回, 合計15回 ・研修の参加人数 看護師 10～15人/回
3) ・研修の主な内容 腎移植（移植免疫, GFR） ・研修の期間・実施回数 2回 ・研修の参加人数 40人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
1) ・研修の主な内容 肝疾患診療連携ネットワーク研修会 ・研修の期間・実施回数 年3回実施 ・研修の参加人数 80～120人/1回あたり
2) ・研修の主な内容 呼吸器外科手術手技セミナー ・研修の期間・実施回数 1日・1回/年 ・研修の参加人数 約30名

- 3) ・研修の主な内容 症例検討会（血液腫瘍症例検討会，小児科合同症例検討会，臨床懇話会）
- ・研修の期間・実施回数 それぞれ月1回，月2回，月3回
 - ・研修の参加人数 それぞれ8人，20人，40人
- 4) ・研修の主な内容 腎移植
- ・研修の期間・実施回数 2回
 - ・研修緒参加人数 150人
- 5) ・研修の主な内容 促進反復療法をはじめとしたリハビリテーションの研修
- ・研修の期間・実施回数 1月～12月
 - ・研修緒参加人数 63名
- 6) ・研修の主な内容 HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業実施研修
- ・研修の期間・実施回数 平成26年2月7日，13日，14日，20日，21日，27日の6日間
 - ・研修の参加人数 1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

況び 第九 条の 二十 第一 項	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療環境安全部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医務課
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第九條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第二十三條	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	に掲げる	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床技術部
	体制の	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
	確保の	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部
	状	医療機器の安全使用	臨床技術部

	況	のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
--	---	--	--	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	熊本 一郎	
閲覧担当者氏名	総務課長 島森 俊光	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 閲覧場所を設置し、閲覧の要求があった場合、対応出来る状態です。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 安全管理に関する基本的考え方(3) 組織に関する基本的事項(4) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針(5) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針(6) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針(7) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(8) 患者等からの相談への対応に関する基本方針(9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療の安全管理体制の確保に関する事(2) 医療に関する安全管理指針に関する事(3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事(4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関する事(5) その他医療の安全管理等に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">第1回 医療におけるヒューマンエラー -医療システムの問題点と対策- (90分)第2回 医療安全・感染対策推進のために～本院の事例をふりかえって (30分)第3回 みんなで取り組む感染症対策と医療安全 (40分)第4回 (シボジウム)「手術安全シンポジウム -安全な手術のために- (90分)第5回 除細動器 ～除細動器の基本操作について~/人工呼吸器 ～加温加湿について～ (30分)第6回 輸血と医療安全 (30分)第7回 CT・MRI検査に関する医療安全講習会 (70分)第8回 安全な医療のために望まれる行動と態度 (30分)第9回 麻薬管理 (30分)第10回 新病棟生体情報モニターシステムの研修会 (45分)第11回 入院患者の自殺予防 (30分)第12回 除細動器～AEDの操作方法と注意点~/人工呼吸器～基本的な換気モード～ (30分)第13回 医薬品安全研修会 (45分)第14回 医療ガスについて (30分)第15回 医薬品安全研修会 バッカル錠と舌下錠について (60分) <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を毎年度改訂(2) 医療安全管理強化月間(5月、11月)を設定	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	①(有) (2名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	①(有) (7名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	①(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (11) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全を確保するための改善方策に関する事 (2) 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関する事 (3) インシデントの分析に関する事 (4) インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関する事 (5) 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関する事 (6) 医療安全管理委員会の円滑な運営に関する事 (7) 医療安全に係る連絡調整に関する事 (8) その他医療安全対策の推進に関する事 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	①(有) ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">I 趣旨II 院内感染対策の基本方針III 組織体制IV 職員の教育及び研修V 報告に関する基本方針VI 対応に関する基本方針VII その他VIII 閲覧	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染制御と患者の安全確保を主な目的として、院内における感染症発生状況を把握し、感染対策に関する事項（原因分析や改善策等）の審議、諸施策を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">第1回 「医療安全・院内感染対策推進のために～本院の事例を振り返って～」第2回 「みんなで取り組む感染症対策と医療安全」第3回 「手指衛生」第4回 「結核」第5回 「耐性菌と抗菌薬」第6回 「インフルエンザ」第7回 「ノロウイルス」 <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映会による研修会及びe-learningによる研修を実施している。</p> <p>※ 上記研修会の他、以下の者を対象とした研修を別途実施している。</p> <ul style="list-style-type: none">* 新規採用者、中途採用者…針刺し・切創対策や廃棄物処理に関する研修* 初期研修医…感染症診療・標準予防策・手指衛生に関する研修* 清掃・院内配送等の委託業務従事者…標準予防策、針刺し発生時の対応、環境整備等に関する研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 院内感染発生時に部署からICTに報告(2) 注意すべき病原体の検出時に検査部からICTに報告(3) 週1回検査部から病棟別主要注意菌検出状況をまとめた感染情報レポートをICTに提出(4) 重大な感染事例の発生時はICTから病院長に報告(5) ICTスタッフ会議、感染症対策委員会において報告(6) リスクマネージャー連絡会議を通じて院内に周知	

• その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 院内感染発生状況の調査・とりまとめ・分析
- (2) 感染防止対策や感染症診療についての助言・指導
- (3) 感染対策マニュアルの整備及びICTラウンドによるマニュアル遵守状況の確認
- (4) 院内感染発生時における二次感染防止対策の策定・実施
- (5) 抗菌薬届出制の拡充及び抗菌薬適正使用活動の推進
- (6) 職員の4種ウイルス感染症抗体価確認及びワクチン接種の徹底、特定部署の職員を対象とした定期的クオンティフェロン検査の実施等による職業感染予防対策の強化
- (7) 部署毎の感染対策に関する年間改善目標・計画の設定

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 新任者対象：薬剤の使い方・麻薬の取扱いについて<4/3>2) 研修医対象：処方せんの書き方と薬剤部見学<4/8>3) 新任看護師対象：安全の知識：薬剤の注射薬の基礎 <6/2>4) 全職員対象：医療用麻薬の適正使用に関する研修会<6/11>5) 全職員対象；消毒薬の適正使用～消毒薬の特徴と使い分け<7/1>6) 全職員対象：処方せんに対する疑義照会について<9/26>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医薬品の採用・購入について(2) 医薬品の管理について(3) 患者に対する投薬指示から調剤までについて(4) 患者に対する投薬や薬剤管理指導について(5) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いについて(6) 他施設（医療機関）との連携について	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">▶ 術前に休薬を要する薬剤・周術期の使用に注意を要する薬剤一覧表を各診療科との了解のもとに作成し、院内共通とした。▶ これに伴い、また、入院支援室設置に伴い、持参薬の運用変更を行った。▶ 自動車等危険な機械操作をしていけない薬剤の注意喚起を紙面（DI news）で行うとともに、処方オーダー時に警告画面を表示する措置を行った。▶ 抗がん剤のばく露対策について化学療法委員会を通じて検討しており、早急に指針をまとめる予定である。▶ HB肝炎再燃を防止するための確認、周知等の対応を検討し、その対応策を院内で運用できるように作業を進めている。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容： 特定機能病院において特に研修が必要な7種の医療機器は年2回の研修を必ず行い、また新規導入医療機器の使用前研修も必ず行っている。その他の医療機器も日常点検方法および業務引き継ぎ時研修を実施し、必要に応じて年に1回以上の研修を行い記録している。 また、病院全体の医療従事者を対象とした研修として、平成26年7月1日に「除細動器の基本操作」と「人工呼吸器における当院の現状」の研修会を行い、安全使用に関する事や注意事項等について研修を行った。平成27年2月に除細動器と人工呼吸器に関する安全使用に関する研修会の開催を予定している。 平成26年9月10日に「第10回CT、MRI検査に関する医療安全講習会」、9月17日には「内視鏡検査・治療及び造影剤検査・血管内治療に関する安全対策研修会」を実施し、医療従事者に対する医療機器・医療安全のための研修を行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (○・無) ・ 保守点検の主な内容： 平成26年度初めに例年通り医療機器保守点検計画を立て、保守点検計画に沿って点検を行っている。特定機能病院において特に点検が必要とされる7種の医療機器はもちろん、各部門において、診療で使用されている医療機器の始業・終業点検、年一回の安全点検等を行っている。また、医療機器管理ソフトを使用して医療機器の貸し出し・返還、動作状況等を管理している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	(平成26年10月1日現在)
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の安全情報の収集として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)からの医療機器の有効性及び安全性に関する情報の収集(PMDAナビ)、そのナビ情報に付随する公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの医療事故情報、臨床工学技士会、日本診療放射線技師会並びに国立大学放射線技師会医療安全情報等により収集している。PMDA情報及び医療事故情報収集等事業報告書等は臨床技術部各部門へ配信し、全員が同じ情報の共有、周知を行っている。さらに、年に複数回の医療機器安全管理検討委員会、医療機器安全管理担当者会議を開催し、検討した結果を病院医療安全管理委員会へ報告し周知を行っている。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 審査体制区分4 (Ver6.0) 平成24年5月20日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 HPにおいて、各診療科等の特色を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救急患者及び複数疾患頭においては、診療科を越えて連携して治療にあたっている。	